

帖真寫變事蒙滿

特268-257



358

134

257



始



特26
25

滿蒙事變寫真帖



忠孝之日本



滿蒙事變の由來

九月十八日夜中、東北第一旅(旅長王以哲)の支那兵が滿鐵附屬路橋を爆破したことが直接の導因となつて、我滿洲駐屯軍による自衛權の發動となり、滿鐵沿線各地の占據となり遂に茲に所謂滿蒙事變を見るに至つた。滿蒙は即ち東洋のバルカンであり、日露支三國の利害關係錯綜し、殊に日支間の關係は歴史に其比を見ない複雑性を帯び、大小の懸案三百餘に及ぶ有様である、即ち長大租借地回收問題、駐屯軍撤退要求、商租權問題、鐵道利權の無視、借款踏倒し、鐵道網に依る滿鐵の包圍、鐵道交渉に對する支那の無誠意、在滿鮮人問題、不當課税問題等々枚舉に遑がない、此等は支那側の無誠意に依つて一つも解決されず、我權益は次第に其影を薄くし、在留民の居住不安は日を逐ふて増加しつゝあつた折柄、六月下旬長春萬寶山に於ける鮮人農民壓迫事件が起り、同月下旬蘇鄂公署府に於て、わが陸軍少佐(當時大尉)中村實太郎、元騎兵曹長井杉延太郎兩氏が關玉衡の屯墾隊のために虐殺さるゝ不詳事件が勃發し、八月右に關する交渉が、林奉天總領事と支那官憲との間に開始され、九月に入りて積々解決の曙光を見出したと思ふ間もなく五月以來時々計畫的に行はれてきた支那側の滿鐵列車妨害事件の最後の閃光として九月十八日の柳條溝附屬橋樑事件となつた。滿鐵は云ふまでもなく我在滿權益の最も大なるものであり、且又世界交通の幹線でもあり、わが滿洲駐屯軍は鐵道守備を以て第一の任務としてゐるものであるから、決然起つて自衛權を發動するに至つたのである。

滿蒙事變寫眞帖

目次

日支紛争、滿洲事變を討議する國際聯盟會議	長春歩兵第四聯隊營庭に於ける支那兵俘虜
滿蒙一變―日支戰局地圖(一―二)	我軍の手に歸した東北兵工廠と齒接兵器
滿洲事變の實き犠牲者故中村少佐と井杉曹長	奉天に移動する我軍精銳
北大營 攻撃	意氣衝天、軍用列車で
滿鐵列車妨害事件最後の閃光―柳條溝橋樑爆破	我國民の同情を受けぬ支那―排日氣勢益々昂る
奉天に於ける我裝甲自動車隊の活動	治安維持に努めつゝある奉天
占領した東北陸軍兵工廠	人道に生きる我將士
北大營占領後戦跡に輝く我日旗	恭親王奉天北陵を展墓―日支親善を宣す
紅頂山の戰間に我軍砲隊實彈を發射し敵軍を威嚇す	日章旗を掲げて皇軍の入城を喜ぶ撫順支那良民
一戦を交へず東大營占領、支那軍武器引渡	風雲急なる滿蒙の野へ
捕虜實に千六百名	馬占山の第一戦線視察
奉天城内に於ける我軍タンクの活躍	馬占山東第一線の防備
占領後の奉天を守る我軍	戰時気分横溢、濱松飛行隊出動
北大營に輝く日旗と支那正規兵捕虜	千葉鐵道聯隊の一部滿洲に向ふ
奉天城及商埠地に市制施行	皇后皇太后より御下賜の眞鍮
占領後の奉天を守る我機砲隊	馬々濱附近に於ける馬軍追撃中の我野砲隊
占領後の東北邊防軍司令長官公署	馬々濱を占領せる我軍の萬歲連呼
武裝を解除された支那兵器廠と我夜間歩哨	チ、ハルに向つて我〇〇聯隊の猛進
奉天及滿鐵線上を護る我軍	皇軍の意氣天を衝くチ、ハル進撃
奉天商埠地に於ける鐵條網	躍進又躍進敵を威嚇す
吉林に向ふ我裝甲列車	敵軍追撃中の我裝甲列車
長春方面に出動する我部隊	齒接せる馬占山軍の野砲と青天白日旗
吉林に出動する爲め長春驛頭集合の我部隊	馬占山軍撃滅を期して
奉天に於ける我憲兵隊治安維持に關する訓示	鐵道を利用し敵軍急進
長春市内示威の我騎兵と特志看護婦人の活躍	滿洲の曠野に活躍する我軍用犬
長春街上の憩中の我軍	一團支那第一の英雄視ざる馬占山と娘子軍
長春驛に到着の吉林方面よりの遊撃者	日章旗を翻し我騎兵チ、ハル入城、英露水へに幸あれ
	歩武堂々チ、ハル入城の冷水旅團

日支紛争満洲事變を討議する國際聯盟會議



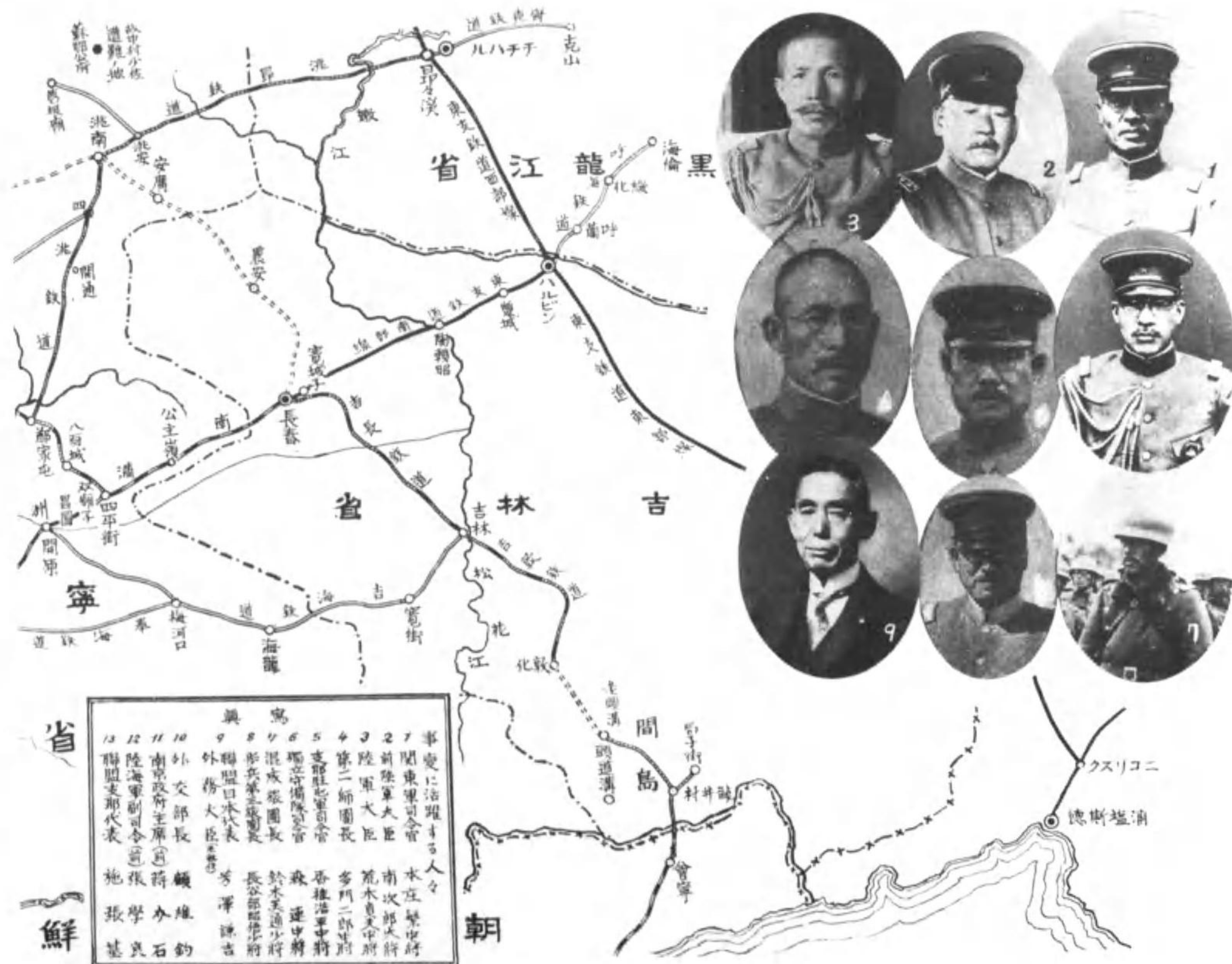
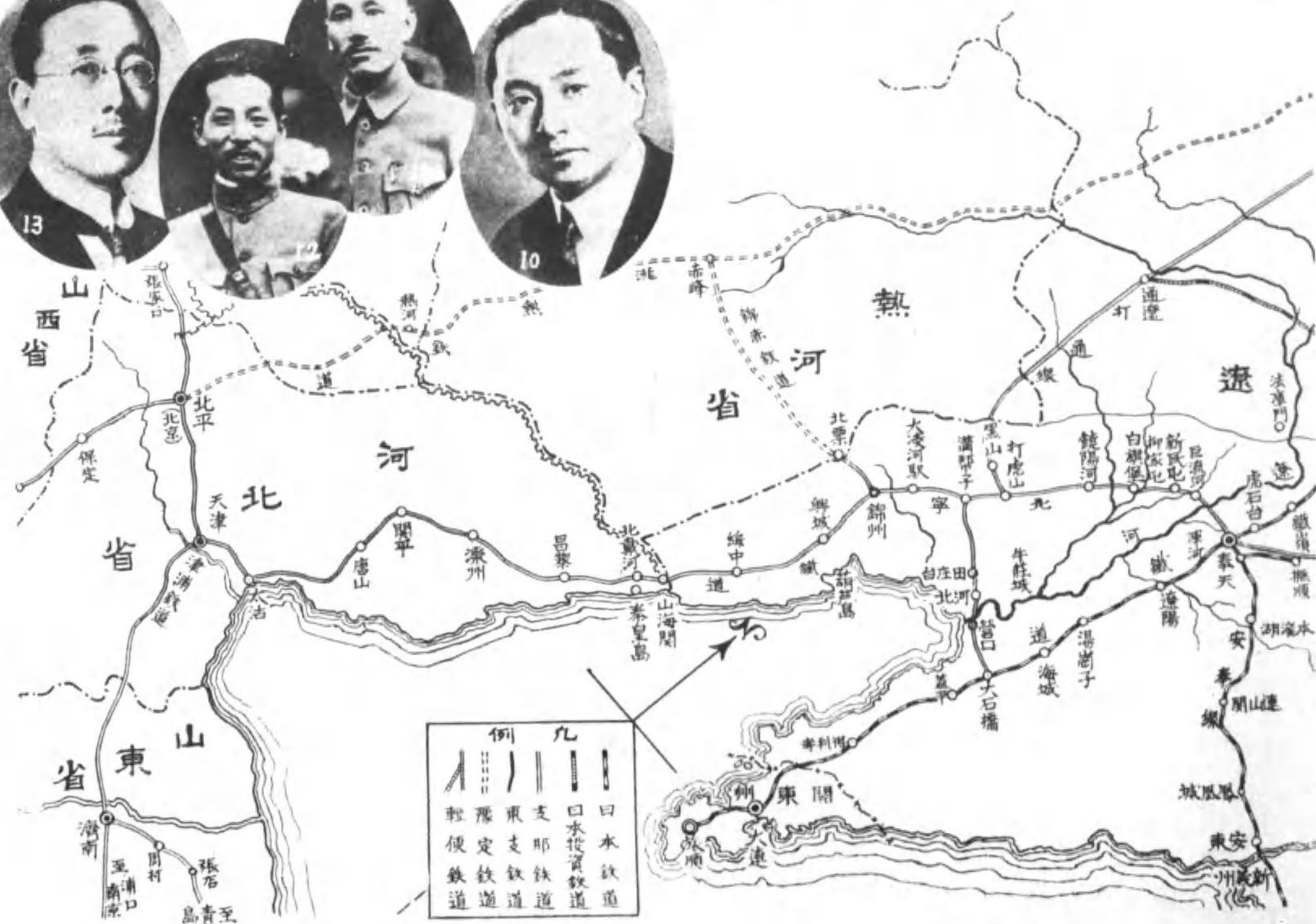
今回の満洲事變がロエネーグで開會中の聯盟理事會の壇上に上つたのは昭和六年九月廿一日（柳條湖滿鐵線路爆破日支交戦より四日
目）支那代表施肇基氏が理事會に提議せるに始まり翌廿二日右に關する理事會が開かれた。同月卅日、同十月十三日より同年十二月十
日に至る間或は公開に或は秘密會議に理事會は續開され茲に我主張は悉く貫徹され聯盟理事會議は閉幕したのである。寫眞は理事會議
の光景で(1)孤軍奮闘の我代表芳澤謙吉氏(2)

我戦死者を喇嘛僧も供養
チ、ハル城に於ける鈴木旅團長と幕僚
敵を木葉微塵に粉碎した我陸軍の精銳十戦友の
英靈永へに安かれ
新發田聯隊の經理部十七士奮戦の跡
八勇士の遺骨故郷をきして
一視同仁！奉天赤十字病院に收容の支那軍負傷兵
關隊を前にして勇躍の派遣兵
天津の各國駐屯軍共同戦線を張る
天津の日支開戦！我軍猛射を浴せしかく
塘沽に於ける我編運艦上の警備
同上
遼河一帯に亘つて馬賊團を掃滅
馬賊匪賊の徹底掃蕩を期する獨立守備隊
錦州軍に備へて殊勳の各門師團部隊も到着
武勳の平田聯隊二ヶ月ぶり奉天に歸還
兵匪討伐中の我軍歩兵隊
高臺子の戦に捕へられた馬賊の二頭目
各部隊續々天津へ
日本兵隊さん菓子下さい！
新民公安隊武裝解除せらる
皇軍を憫ました支那兵器
鐵道に依り前線へ輿車輸送
排日宣傳も来る滑稽に過ぎてゐる
自旗保衛我軍の散兵陣地(十一月二十七日)
北京線上進出の裝甲列車
我軍のため軍需品輸送中の支那苦力
錦州附近に集結する奉天軍の精銳
皇軍を思ふ女性の優しい心意氣
愛の使命の下に
北京線上出動中の我軍突如原駐地へ歸還
靜寂を裝ふ問題の錦州
奉天城内で逮捕された便衣隊
馬占山陳謝の意を表す

滿蒙事變寫眞帖 目次終

遼河守備隊張學良別動隊と衝突
巡察中の我鐵道守備隊
錦州軍集結中の打虎山兵營
錦州の砲兵工廠と兵營
我鐵道聯隊の活動と雪の兵營附近守備
雪の山海關平野の散兵
奉天東北飛行場に於ける出動準備
我偵察機に〇〇を積込み中の光景
公太堡附近我警官隊の苦戦
金家寨より馬家堡に兵匪討伐に向ふ田所支隊
空軍の威力既に敵軍を壓す
雪中に於ける陣中生活
新民屯附近加藤中隊の民家宅馬賊討伐(其一)
同上(其二)
鄭旗鮮かに書換へられた奉天省政府
奉天省長張作霖氏の就任式
内地部隊續々出征

滿洲事變日支戰局地圖



北 大 營 の 攻 撃



(前頁より)北大營にある支那軍主力は一斉に射撃を開始したので我軍は直に之れに應戦し之れを攻撃して兵營の一角を占領した。敵は機關銃歩兵砲を以て阻射したので我軍は非常な苦戦に陥り野田中尉は遂に重傷した。獨立守備兵第二大隊は苦戦の報に接し之れを救援して鐵道守備隊任務を達成せんが爲め續いて現地に馳せつけ虎石臺中隊の攻撃を援助した。寫眞は北大營の一角に輝く日章旗。

滿洲事變の貴き犠牲者故中村少佐と井杉曹長



六月上旬長春萬寶山に於ける鮮人農民壓迫事件が起り未だ其解決を見ざる六月下旬蘇鄂公署府に於て我が陸軍少佐中村實太郎、元騎兵曹長井杉延太郎氏が關玉衡の屯墾隊のため虐殺さるる不祥事を勃發し、九月柳條溝隨橋場破によつて滿洲に於ける日支交戦の幕が切つて落された。寫眞は貴き犠牲者である中村少佐(左)井杉曹長(右)がカインツテ出發當時の記念寫眞である。

鐵道破壞の動かすべからざる證據品

日支軍交戦の第一の閃きであつた北大營西南側滿鐵大連行線の軌道破壊は約二米突の箇所であるが枕木二本、軌條の破片は唯一の證據物件として軍司令部に保管されて居る。寫眞は其枕木と鐵道軌條の破片で帽子刀及銃は敵兵の遺棄したものである。



支那兵が破壊したといふ有力な證據としては爆破地點から北方へかけ上り鐵道歩道にして點々たる血痕が付き現状から約三百米北方東側土堤下に俯伏せになつた支那兵の死體一個それより約百米下の水溜りの岸に一個更にその水溜りの向側高塚如に一個の死體が横ばつて居た。此死體は最初に我兵から背中を射貫かれて逃出したもので線路傳ひの點々たる血痕はその形跡を有力に物語つてゐる。(前頁A、B、C、参照)

寫眞上。戦跡巡視に向ふ本庄司令官及三谷憲兵分隊長。

滿鐵列車妨害事件最後の閃光—柳條溝陸橋爆破



中村大尉虐殺事件を導火線として滿蒙各地に於ける日支兩國の關係が極めて緊張せる折柄九月十八日午後十時頃將校の指揮する支那軍約二中隊が突如として北大營(奉天北方)西南側の滿鐵線路を爆破し續いて柳條溝方面に攻撃前進した。我虎石臺中隊ではこの情報に接するや直ちに之れを救護するため線路上を南下し折柄北大營西南側より兵營に向つて退却中の支那軍に會つた。

寫眞上は破壊現場を示すものである。線路は入替へられたがA、B、Cは敵兵の點々たる血痕の附着位置を示すものである。

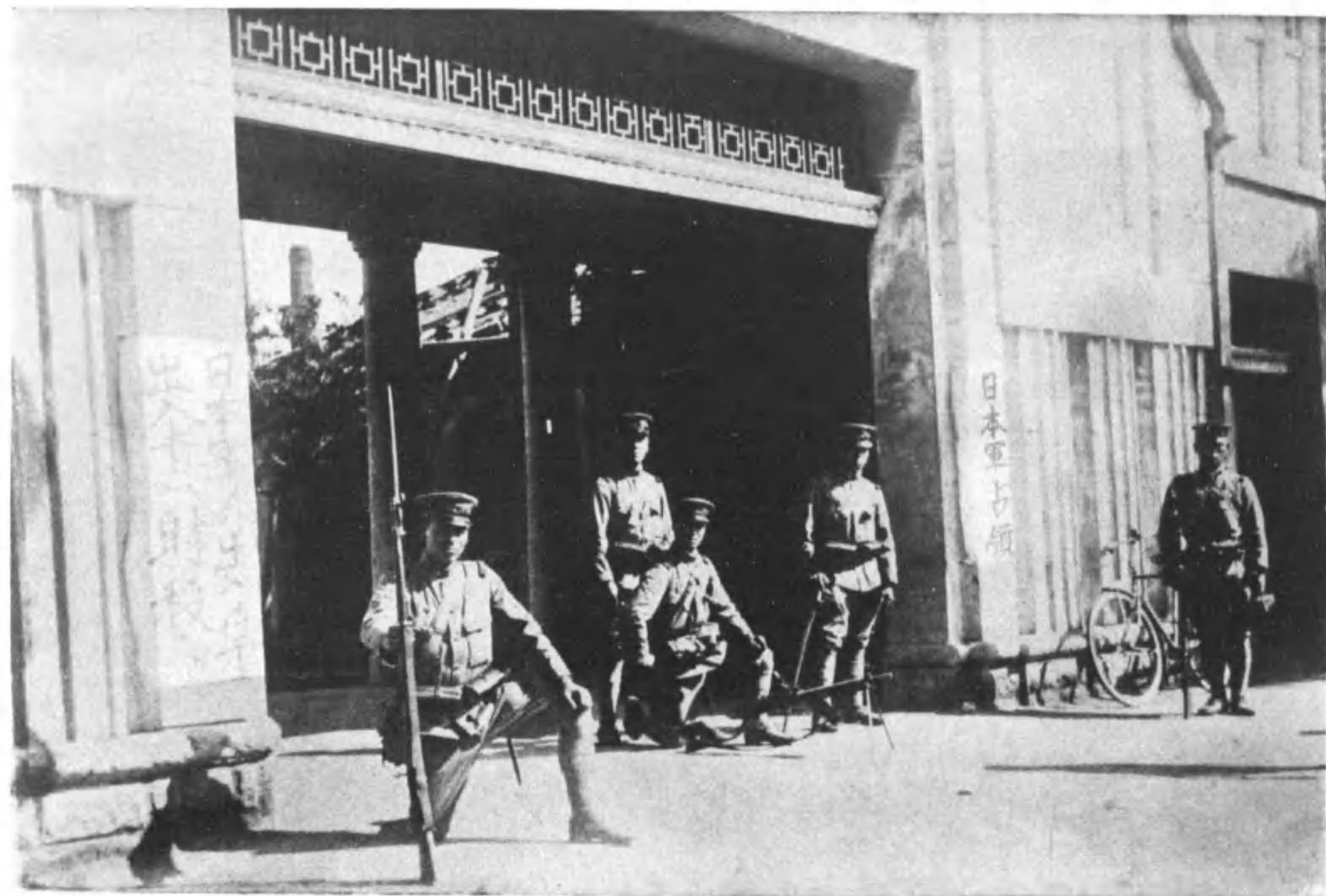
寫眞右 北大營兵營内に貼つてあつたポスター曰く「見よ北大營西方の鐵道破壊を……」

同上 在奉天東北軍第一旅長王以哲の旅團訓示。同下 旅長王以哲の書類箱から發見された秘密命令文書で我軍の發見した時は逸早く中は焼却されてゐたが其内容は

九月十九日を期し至急召集を行ひ豫て打合せたる敏速絕對秘密の行動を取れ各員その任務を完全に盡せ

とあり九月十日付で各團長(聯隊長)中隊長に宛てたもので支那側の今次の鐵道破壊が計畫的なることを證明する動かすべからざる證據であると見られてゐる。

占領した東北陸軍兵工廠



九月十八日日支交戦開始と共に電光石火的に各地兵營官舎を占據してしまつて逆襲の餘地を與へなかつたことは驚嘆に値すべきものである。寫眞は支那東北陸軍工廠で廠門は我歩哨に依つて嚴戒されてゐる。見よ「日本軍の外出入を禁ず、出入者は射殺す」と正に戦時氣分は横溢してゐる。

奉天に於ける我装甲自動車隊の活動



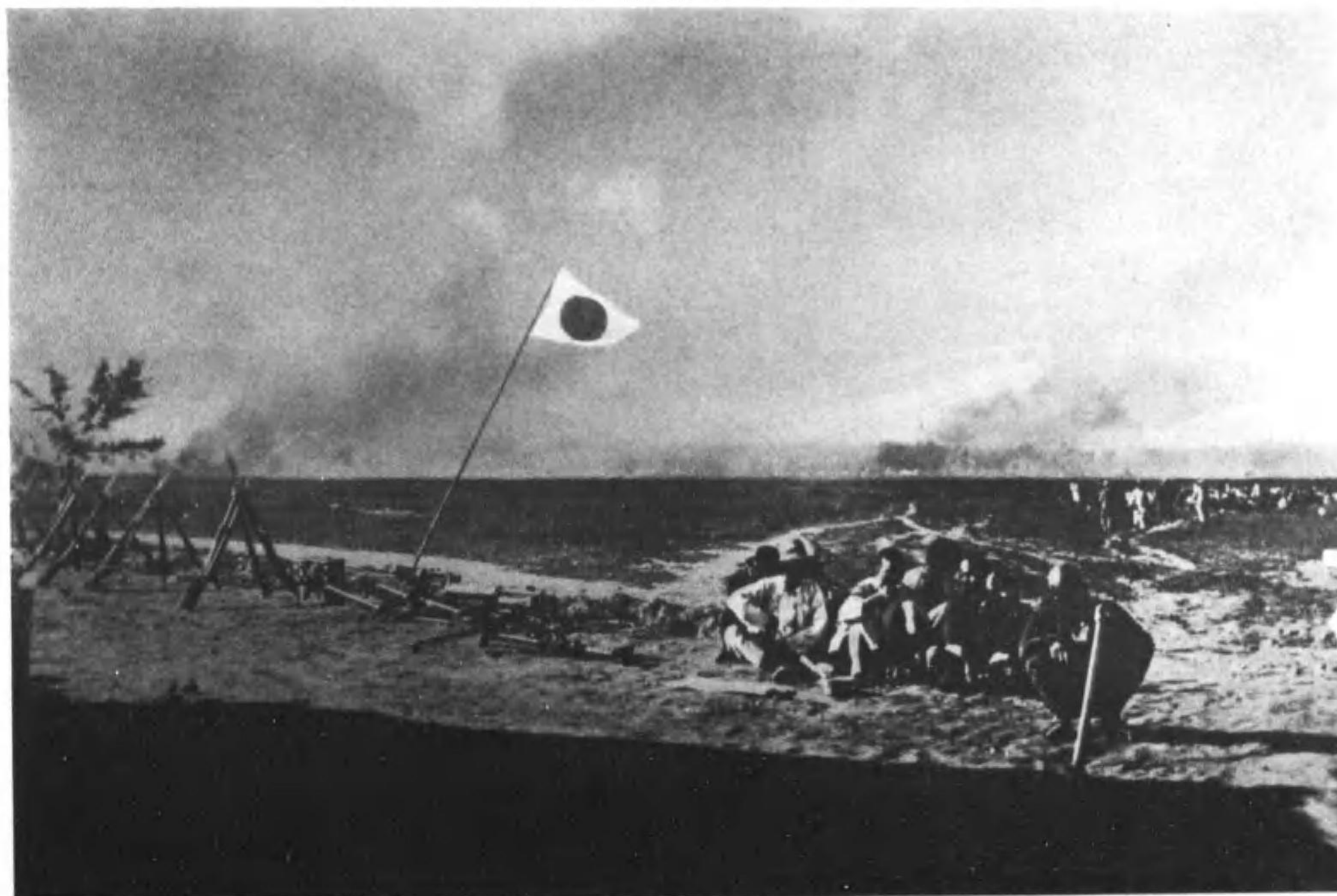
十九日我軍奉天占領と共に遼寧省政府はじめ財政廳、教育廳、長官公署、諸官舎、張學良邸盡く日本軍占領の紙貼り付けられ、銃劍きらめく我兵士の警戒物物しく我兵を乗せたトラック、自動車は東西に疾驅してゐる裡にも城内は自ら平靜に歸り、民衆を壓迫せる支那官憲の影は全く潜んでしまつた。寫眞は城内を警戒する我軍装甲自動車。

紅頂山の戦闘に我重砲隊實弾を發射し敵軍を威嚇す



我獨立守備隊主力約二大隊は二十日朝、紅頂山の敵を攻撃し之れを西北方に潰走せしめた。紅頂山は昌圖附近にあり紅頂山兵營は我砲火で爆破せられ黒煙天に沖す物凄き光景を現出した。寫眞は我軍重砲隊が實弾の猛火を以て敵軍を威嚇中の光景で、左は着弾観測中の我將校。

北大營占領後戦跡に輝く我日章旗



九月十八日夜支那正規兵約四百名によつて爆破、茲に日支兵の衝突となり同十一時二十分我鐵道守備隊は支那軍と會戦の後北大營を占領したのである。此時の敵の捕虜中には行衛不明と噂された東北軍參謀長榮臻の幕僚も交つて一時憲兵隊本部に收容されてゐたと云ふことである。寫眞は北大營戦跡に輝く我日章旗と捕虜の群。

捕虜實に千六百名



我軍は東大營を占領し支那兵四百七十名を捕虜としたが、この外支那官憲三百五十名を捕虜とし向北大營の八百名を加へ捕虜總計は實に千六百名に上つた。寫眞は我軍の爲め輸送せらるる支那兵捕虜でトラックに積込まれてゐる。

一戦を交へず東大營を占領し支那軍武器引渡



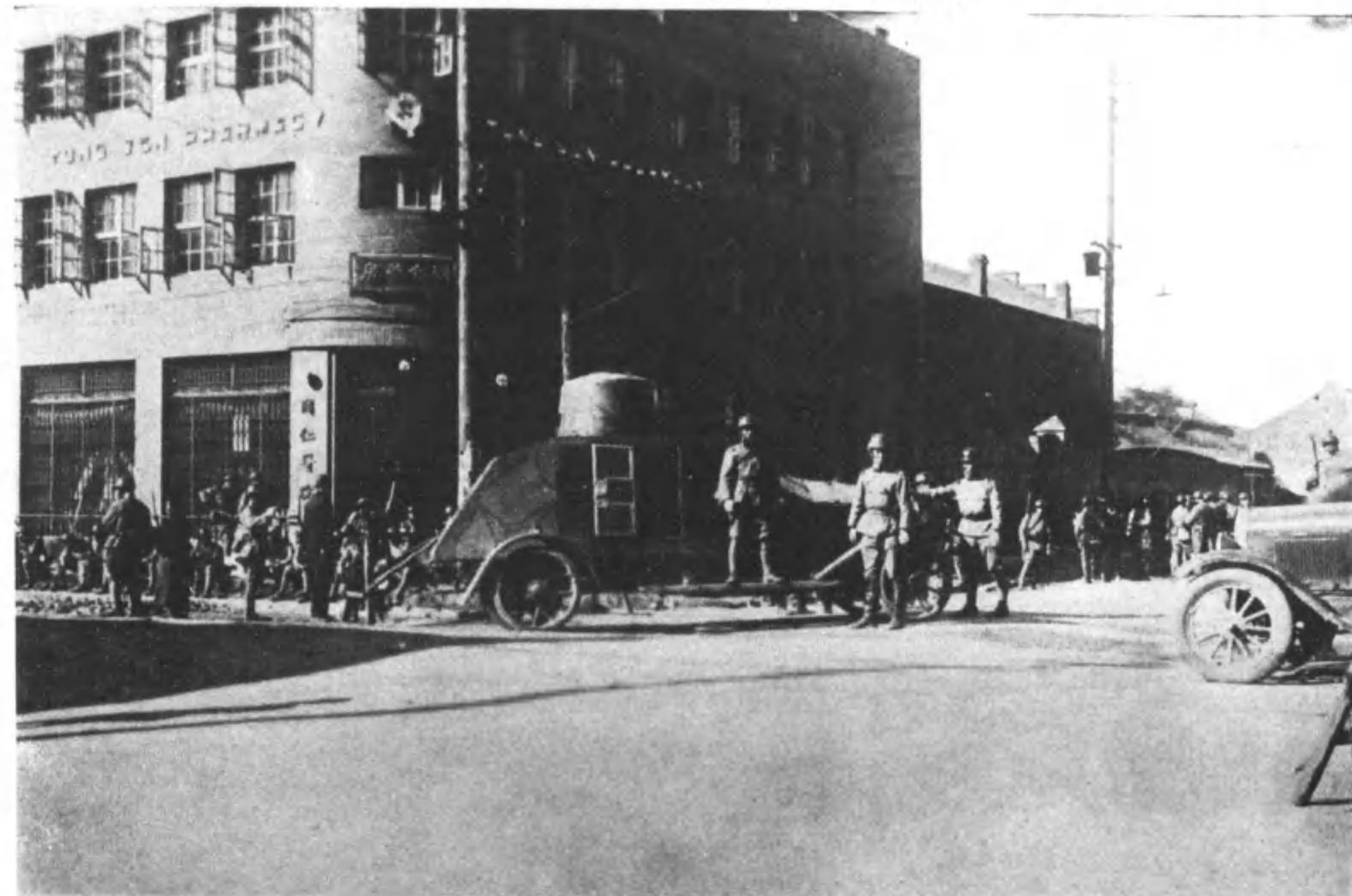
十九日北大營を占領した獨立第一二大隊は潰走する敵兵を壓迫しつゝ、東大營攻撃に轉ぜんとしたが潰走兵は全く戦意なく白旗を懸へし我軍門に降るもの四百七十名に及び我軍は全く銃火を交へず午後二時完全に東大營を占領したが、同營内には精緻なる機關銃や歩兵砲等の押収武器山積してゐる。寫眞は東大營に於ける武装解除の支那兵器引渡しの光景。

占領後の奉天を守る我軍



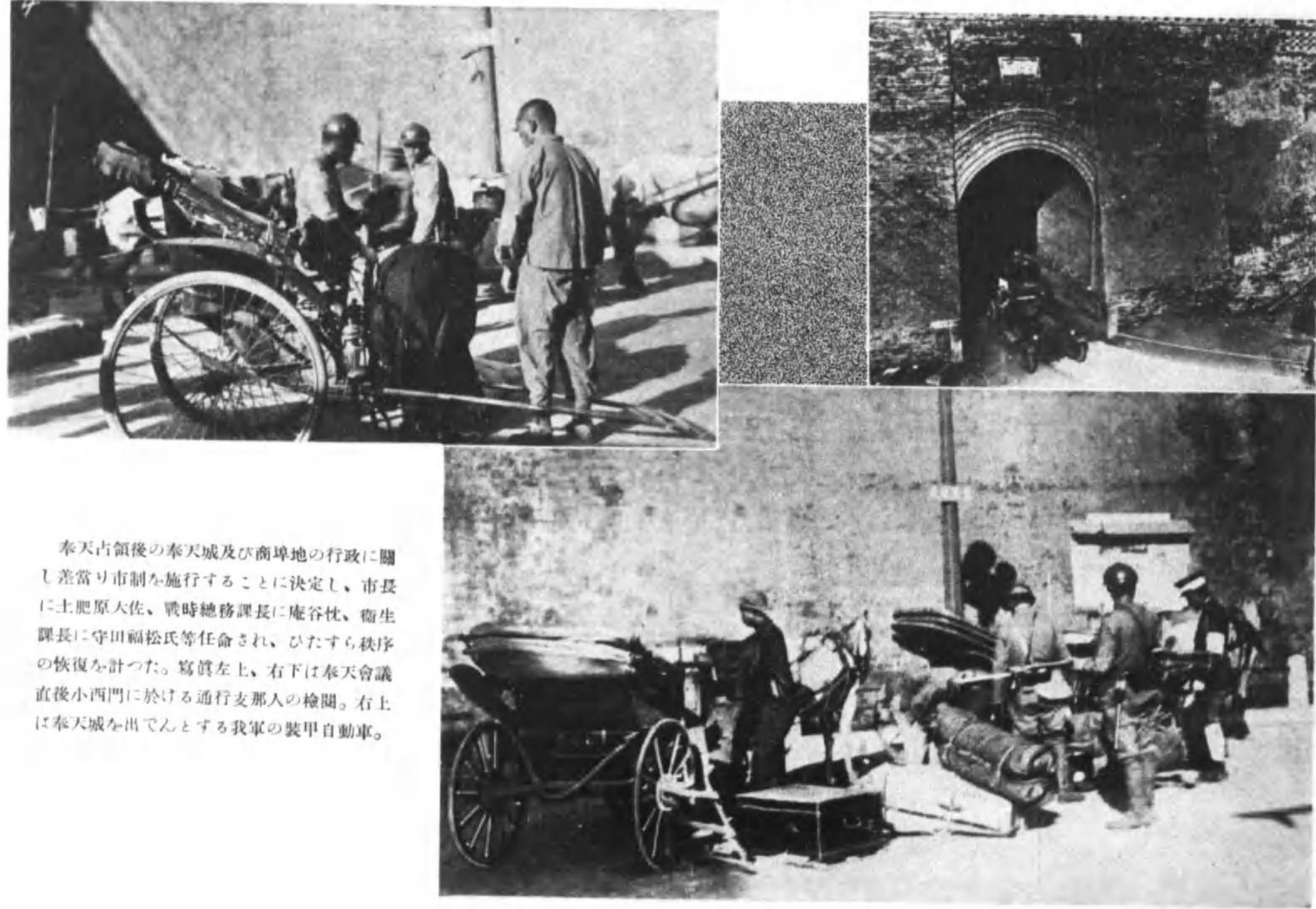
奉天附屬地商埠地は十九日白明けの破聲沈黙と共に居留民も稍や安堵商賈は半に閉業し商埠地は警官在郷軍人團の手によつて封鎖せられ、支那街、支那人との交通は一切止められた。寫眞は奉天城占領後之れを守る我歩兵機關銃隊の活躍振りである。奉天城門外にて。

奉天城内に於ける我軍タンクの活躍



我軍奉天を占領するや我關東司令部に於ては多門第二師團長を衛戍司令官に任じ奉天城内外の治安に當らしむると共に軍政を施行し三谷奉天憲兵隊長をして其衝に當らしめた。寫眞は奉天城内に於ける我タンクの活躍である。

奉天城及商埠地に市制施行



奉天占領後の奉天城及び商埠地の行政に關し差當り市制を施行することに決定し、市長に土肥原大佐、戰時總務課長に庵谷佐、衛生課長に守田福松氏等任命され、ひたすら秩序の恢復を計つた。寫眞左上、右下は奉天會議直後小西門に於ける通行支那人の檢閲。右上は奉天城を出でんとする我軍の裝甲自動車。

北大營に輝く日章旗と支那正規兵捕虜



北大營は九月十八日午後十時半旅長王以哲の正規兵四百名によつて行はれた瀋陽鐵路場直後我守備隊に依つて占領された兵營である。寫眞右上が北大營で、下は北大營にゐた支那正規兵の捕虜である。

占領後の東北邊防軍司令長官公署



寫眞は我軍に依つて占領された支那東北邊防軍司令長官公署で我兵は尙敵の來襲に備へ銃口を敵前に擬して警戒中の光景である。

占領後の奉天を守る我機關銃隊



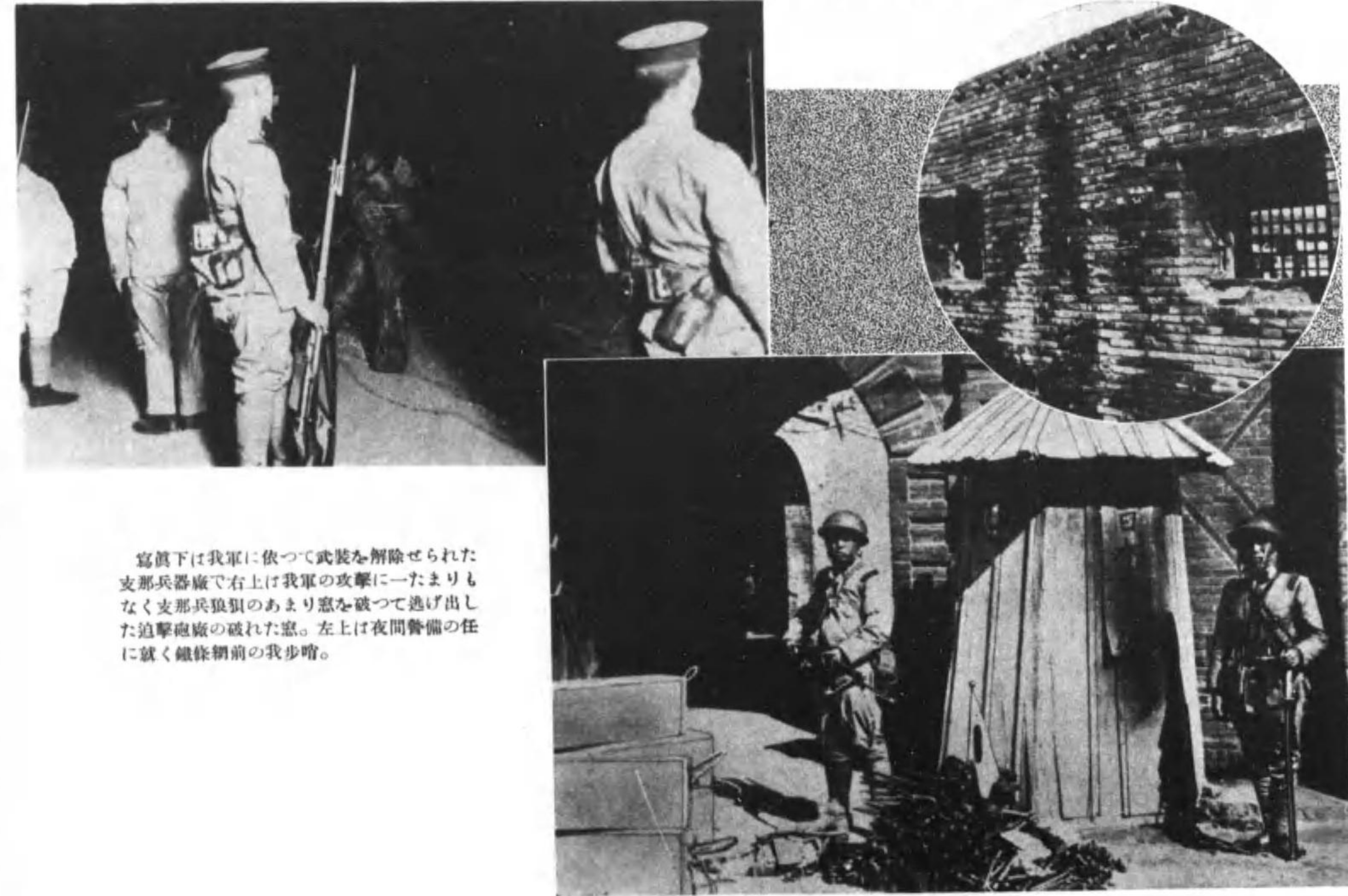
古來要害堅固な誇り譽て東三省の覇權を利して君臨した滿洲王の居城奉天城も正義の刃尖には一たまりもなく遂に我軍の占領する處となり今や全く孤立無援の境地に置かれるに至つた。寫眞は占領直後奉天を守る我歩兵機關銃隊の警戒。

奉天及滿鐵線上を護る我軍



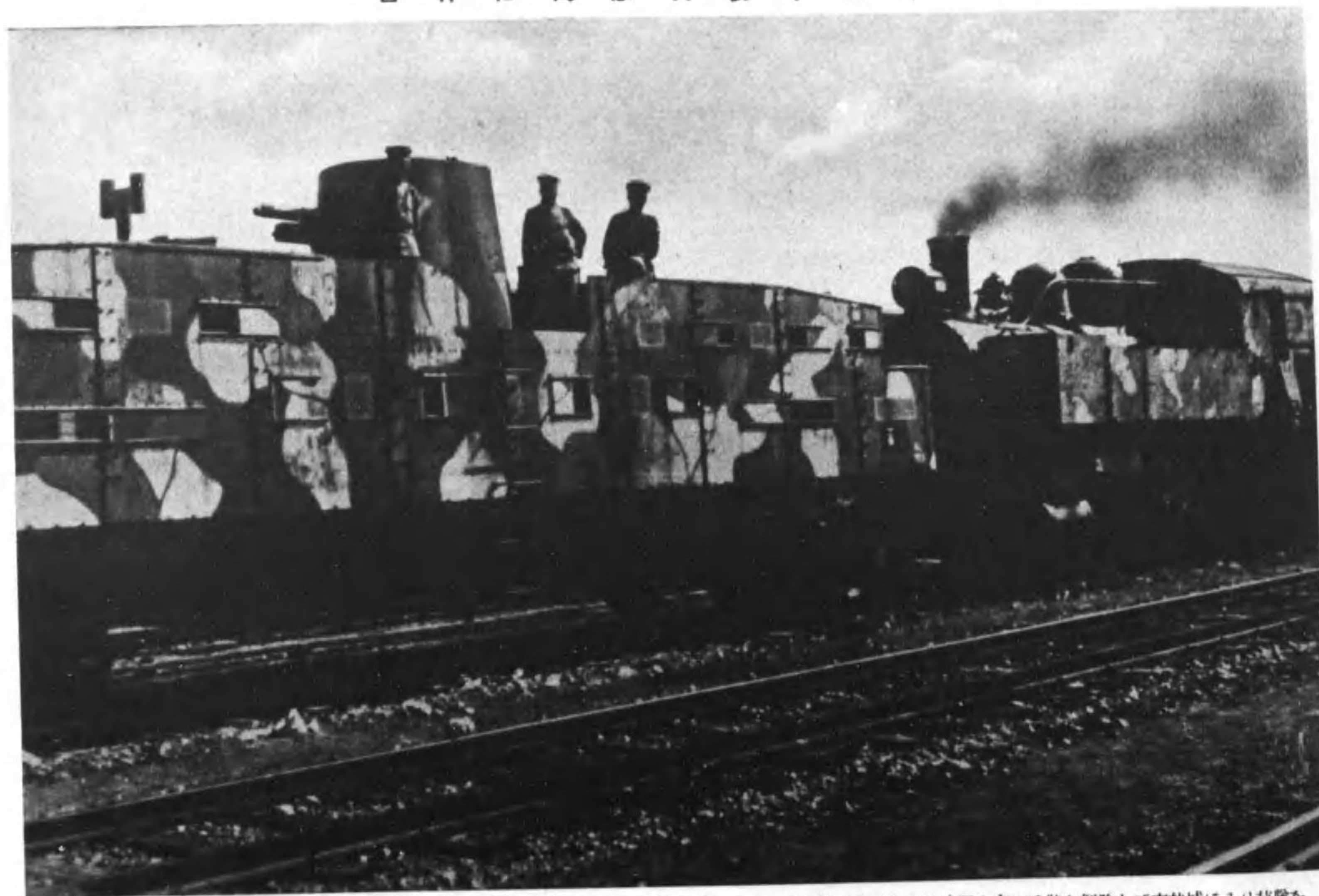
寫眞右上は吉長線下九臺驛に到着の我部隊。左上及下は奉天滿鐵公所前の我軍装甲車の活動振りである。

武装を解除された支那兵器廠と我夜間歩哨



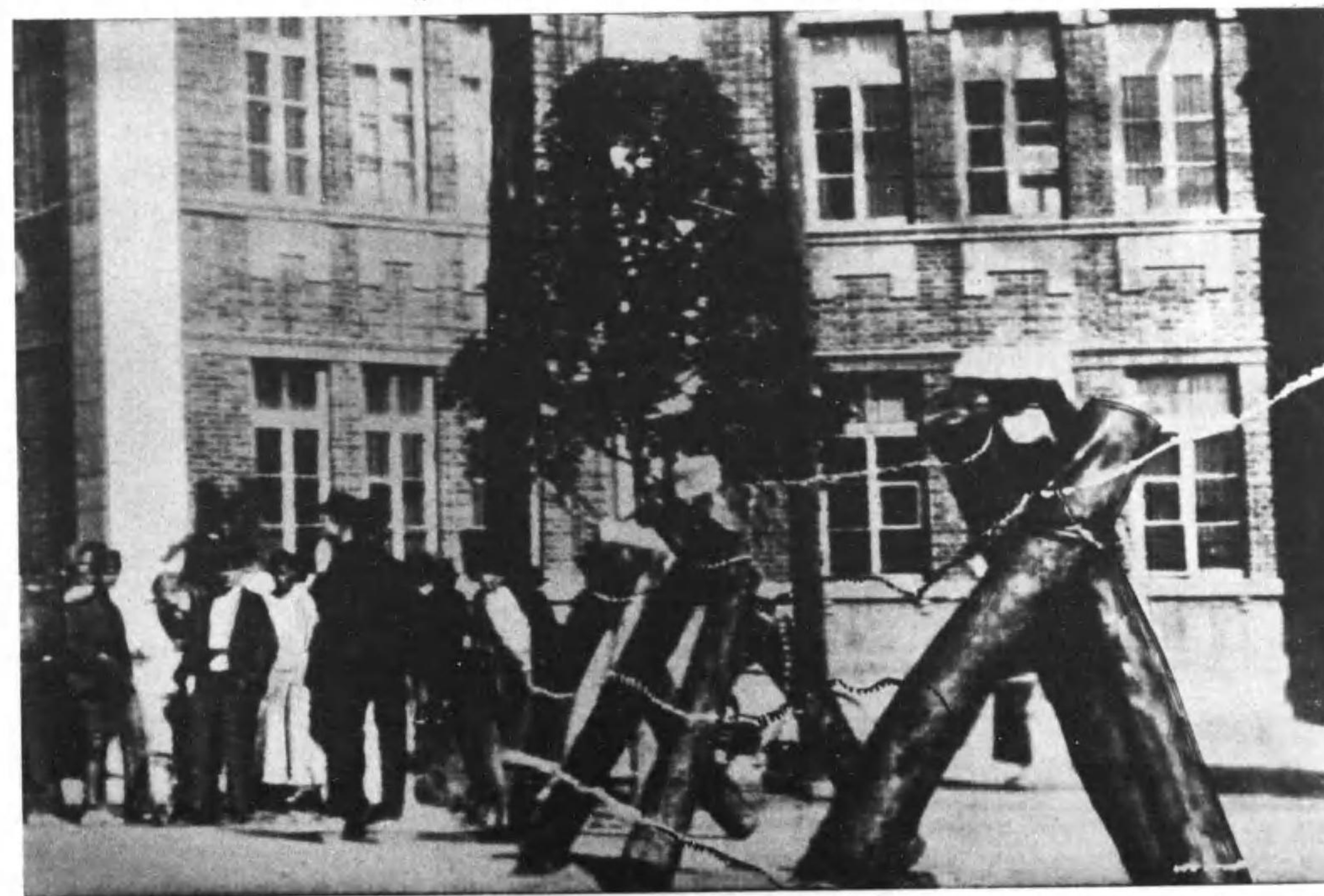
寫眞下は我軍に依つて武装を解除せられた支那兵器廠で右上は我軍の攻撃に一たまりもなく支那兵狼狽のあまり窓を破つて逃げ出した迫撃砲廠の破れた窓。左上は夜間警備の任に就く鐵條網前の我歩哨。

吉 林 に 向 ふ 我 裝 甲 列 車



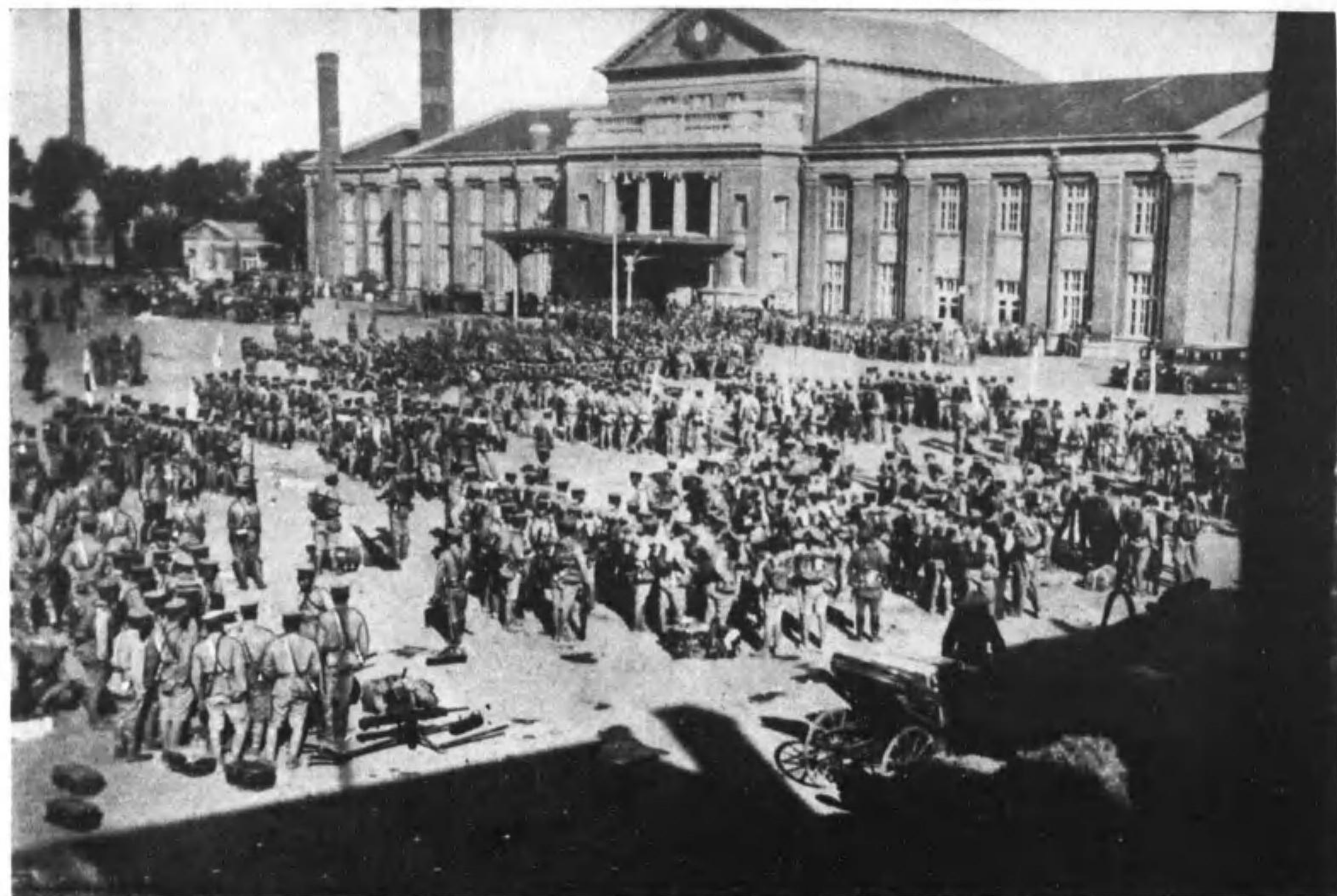
吉林軍の主力殲滅のため第二師團は装甲車を先頭に歩騎砲工の各兵三個列車を編成し廿一日午前長春出勤夕六時軍主力の武装を解除して吉林城に入り残隊を残して師團主力は長春に歸還した。寫眞は吉林に向ふ我装甲列車である。この装甲列車はすべて強い鋼鐵製で外面はカムフラージュが施されてある。

奉 天 商 埠 地 に 於 ける 鐵 條 網



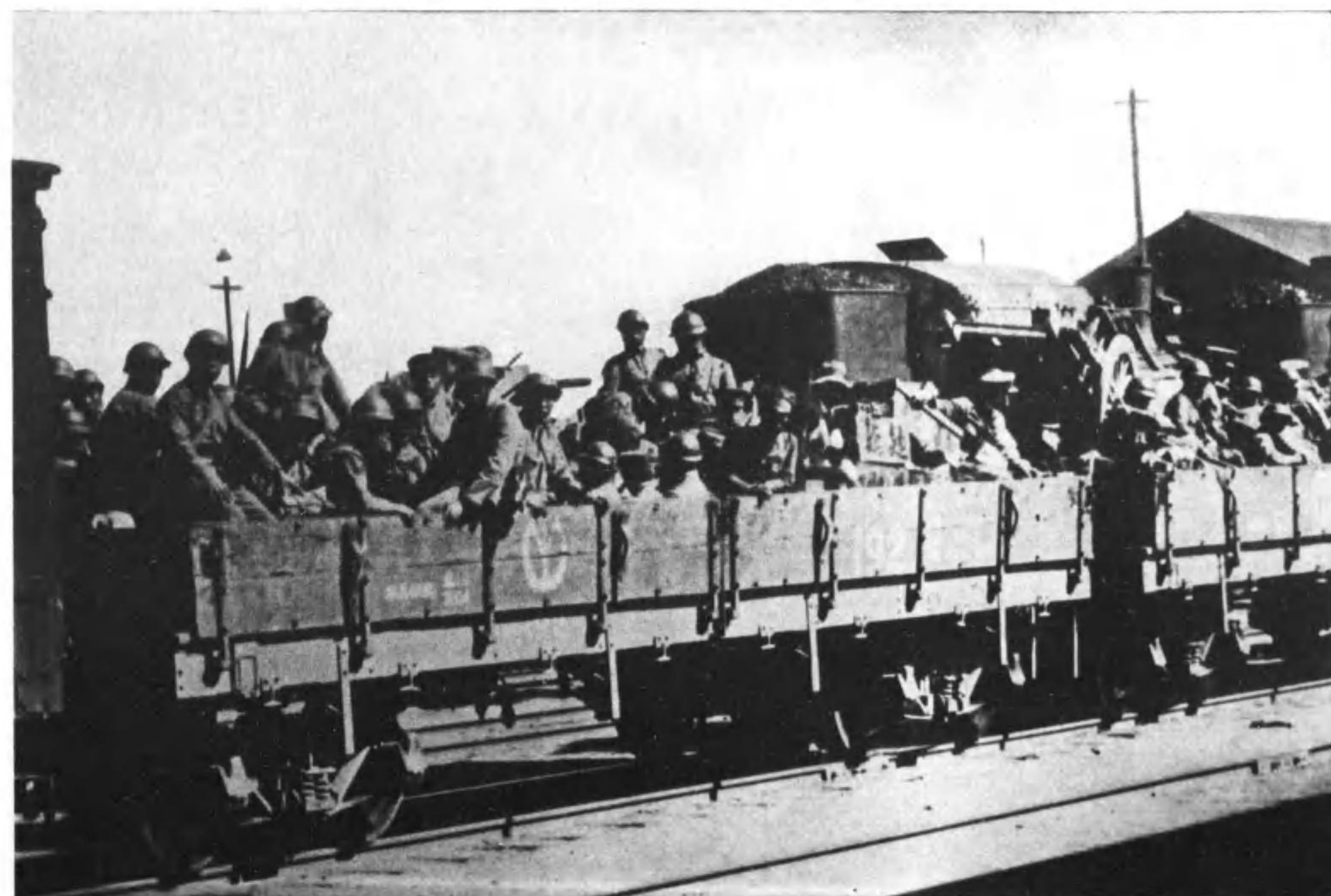
寫眞は奉天鐵道附屬地と商埠地との間に設けられた鐵條網で今や全く我軍の手に歸したが交戦當時は在住者は戦々憚々たるものであつた。日本軍が商埠地帯及び占領せる支那官衙等に於て統制ある秩序の上に寸毫も侵さない爲め支那群衆は心から敬意を表してゐる。

吉林に出動する爲め長春驛頭集合の我部隊



長春に到着した多門師團長は吉長鐵道局を占領直に巡警の武装解除を行つた。更に奥地の形勢が不穩であるので師團の一部は奥地に進み四洮鐵道局の武装を解除して占領し獨立守備隊によりて警戒し羽山少佐の率いる一部は郵電に出動して之れを占領した。續いて吉林軍の主力を殲滅するため部隊を編成し長春を出發した。寫眞は長春驛頭に集合吉林に向ふ我部隊。

長春方面に出動する我部隊



關東軍司令官並に第二師團長の所置は極めて敏捷に行はれ軍は十九日朝來第二師團の主力を以て東大營を、獨立守備隊の主力を以て夫々攻撃して之れを遼順方面に潰走せしめ更に獨立守備隊の一部を以て營口、鳳凰城の武装解除を斷行した。寫眞は長春方面に向ひ汽車輸送の我部隊。

長春市内示威の我騎兵と特志看護婦人の活躍



長春は我軍の勸告により城内支那兵全部は無条件にて武装を解除し巡警は我軍の指揮に従ひ長春は遂に一兵に剩らずして平静に歸した。寫眞上は我軍長春入城後我騎兵隊の示威。下は長春駐屯我歩兵第四聯隊の將校夫人令嬢及び特志看護婦會員が負傷病者看護中の男々しき状態である。

奉天に於ける我憲兵隊治安維持に関する訓示



奉天城内支那街も十九日、二十日まで不安におのろき死の街と云ふべきものであつたが二十一日から我軍の警戒には一ぼの開始し始め、附屬商埠地及省城内は我軍と警官在郷軍人團の手によつて完全に維持が保たれるやうになつた。寫眞は我憲兵隊の治安維持に関する訓示。下は舊海に濱いた我軍の出動直前の光景である。

長春驛に到着の吉林方面よりの避難者



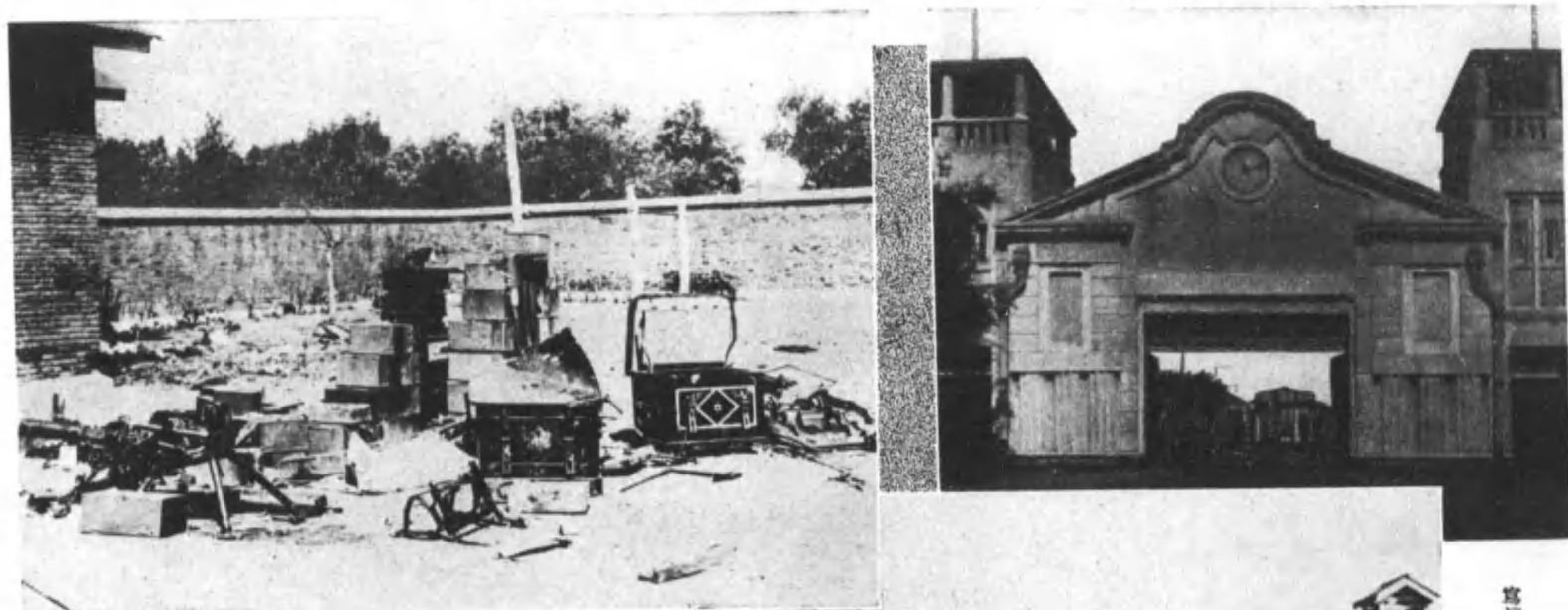
九月十九日我軍奉天占領と傳はるや吉林省政府は吉林省居住日本人の保護は出来ぬ旨發表したので戦々兢兢たる居住邦人は逸早く長春へ引揚の準備に着手後續々として長春へ避難し始めた。寫眞は吉林より到着した長春驛歩廊に於ける避難者の群。

長春街上休憩中の我軍

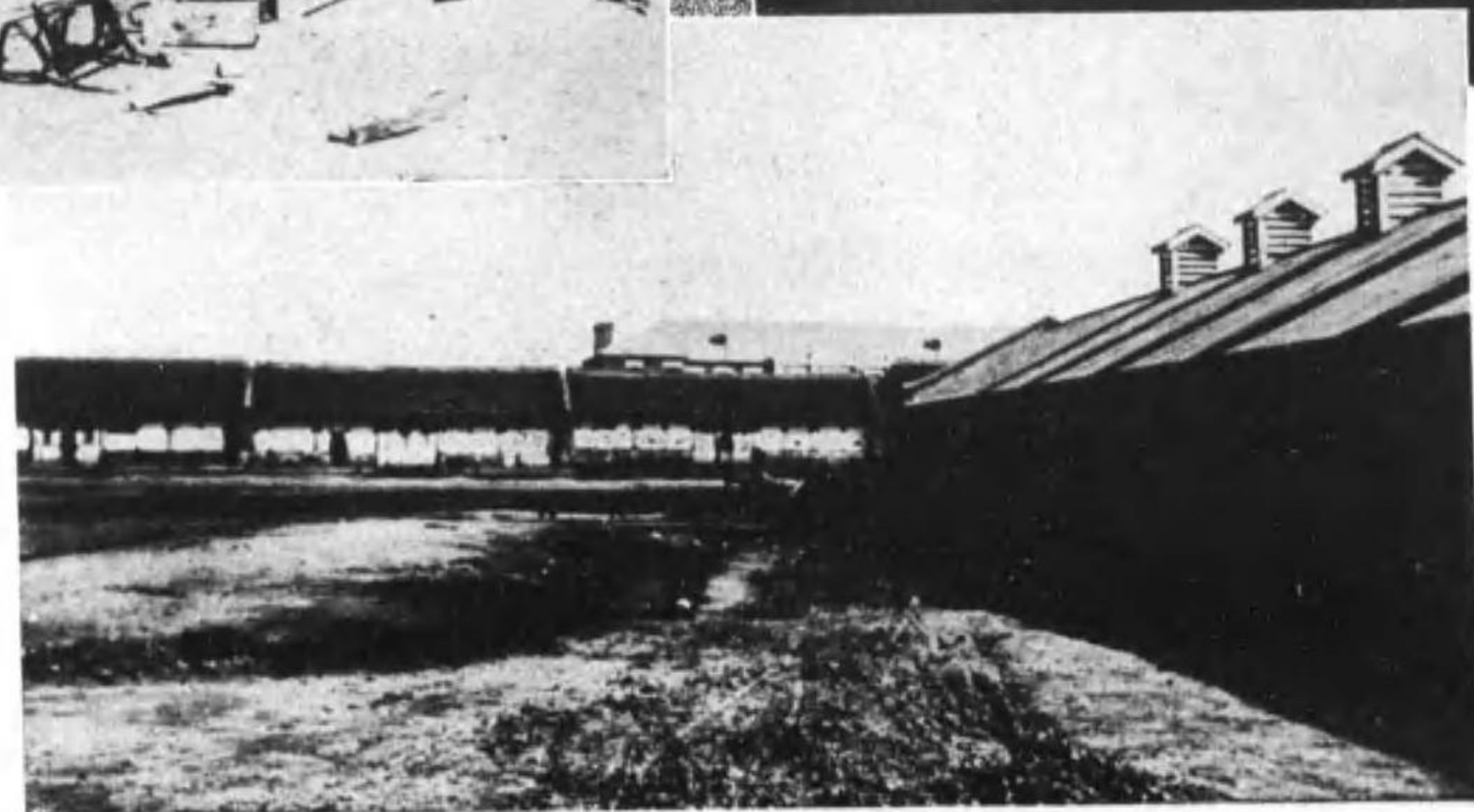


寫眞は我軍が長春街上に於て休憩中の光景、命令一下吉林方面に向ふの意氣を示してゐる陣中の小閑風景。

我軍の手に歸した東北兵工廠と鹵獲兵器



張學良氏が全支那に誇つてゐる精銳奉天軍とはどんなものか即ち若い將校には日本の士官學校や陸軍大學で勉強したのも可成りあるが日本の士官學校を出て歸ると直ぐに大佐になれるのであるから他の隊長の兵學の程度も知るに難くない、奉天の第一師團長などは未だ三十三歳で中將になつてゐる、兵隊の銃は三八式で機關銃も大部分は和製だ、元來が苦力や食ひつめ者を集めた傭兵である、服裝は何れも灰色の小倉服に日本の眞似をした襟章を付けてゐる。外套がないから雨降りには戦争が出来ない、靴は支那靴やオム靴でまらまらの隊が多く食事は自炊である。



寫眞
右上 我軍の占領した東北軍兵工廠
左上 我軍の鹵獲した支那軍兵器
右下 我軍の占領した兵工廠

長春歩兵第四聯隊營庭に於ける支那兵俘虜



長春は一戦を交へずして我軍のために武装解除せられた。寫眞上は歩兵第四聯隊營庭に整列した支那兵捕虜で、左は捕虜輸送の實況。右下は奉天に於ける支那兵捕虜の集合である。

奉天に移駐の我軍精銳



奉天に移駐の我軍



奉天に入城の我軍



我軍捕獲の支那軍器運搬

長春吉林方面に活動する我兵



吉林哈爾濱方面に主力を有する吉林軍が兵力集結を策すとの報に接するや、軍は直ちに第二師團の主力を長春に出動せしむるに決し、多門師團長は主力を率ゐて二十日長春に向ひ其一部は公主嶺の南に當る水源地附近にて敵軍と戦ひ激戦後敵を敗走せしめて昌圖を占領した。寫眞上左長春に向ふ我兵。左下は吉長線九臺驛に到着の我軍、右上は同九臺驛前に塹壕を掘る我兵

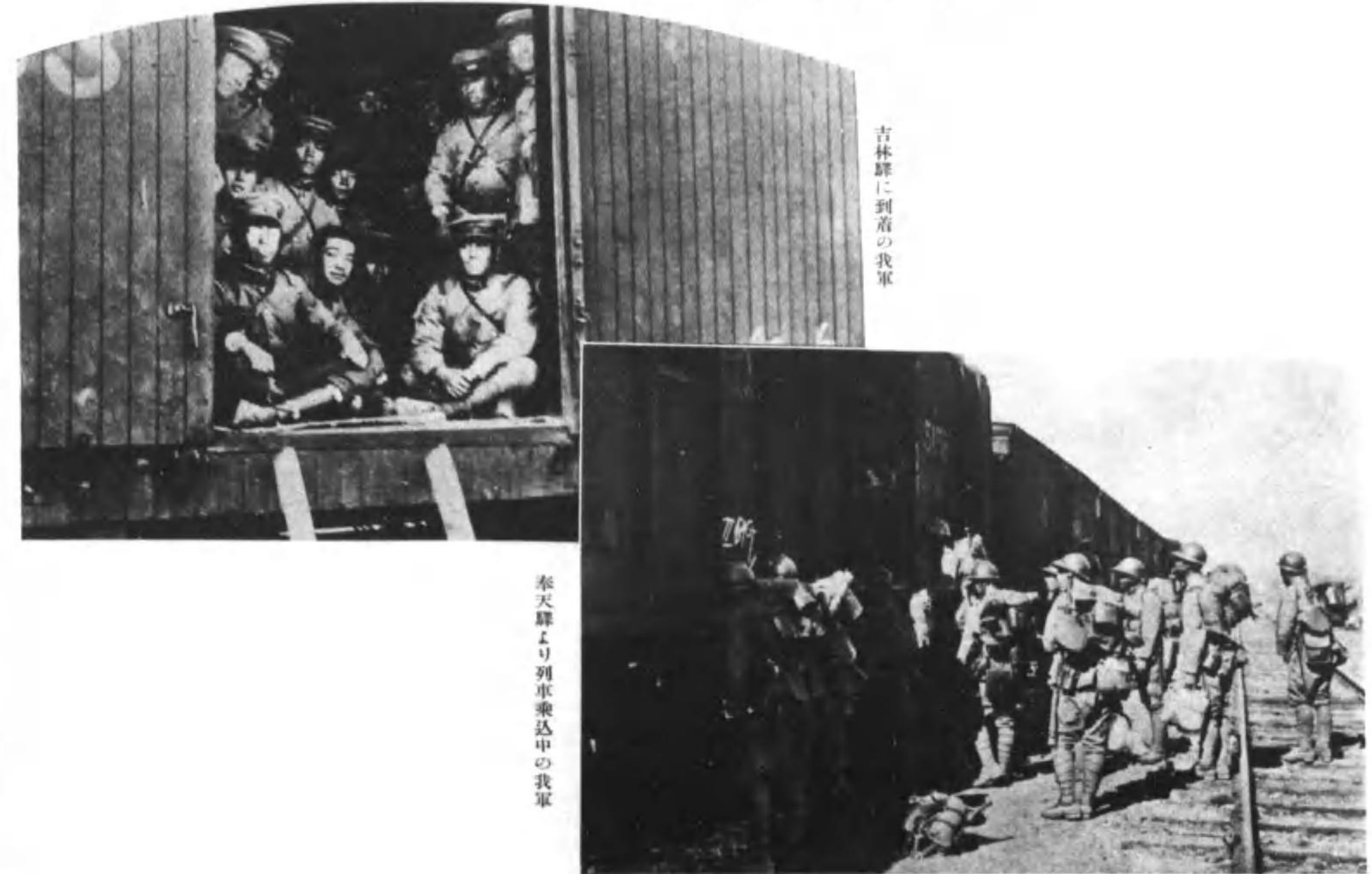
我國民の同情を受けぬ支那——排日氣勢益々昂る



眞寫
左上げ排日氣勢最も猛烈な南京に於ける
排日示威、下は商店ウインドーに掲げら
れた「國難」の大幕。

支那四省に亘る大水害のため我國より慰問使深尾男は我同胞の同情の集積である慰問品を天城丸に満載し上海に至り財政部辦事處に國民水災救濟委員會々長宋子文氏を訪ひ正式に贈呈せんとしたるに言を左右し受領を肯せず我國民の同情は宙に迷ふといふ面白からぬこととなつて終つた。之れは勿論滿洲事件から支那個の態度に激變を來たした爲めであらう、而して彼等は我同胞の同情を自己の進宣傳に利用し寫眞に見るとき「水災に乗じ滿洲を占領した日本に舉國一致當れ」といふやうなガスマーが辻々に掲げられてある。正に彼等の心情こそ惡むべくまた憐むべきものである。

意氣衝天、軍用列車で



吉林驛に到着の我軍

奉天驛より列車乗込中の我軍

人道に生きる我將士



奉天の王座にあつて暴威を振りまはした張學良も自ら招いた日支衝突に逸早く宏壯の邸宅を棄てて北平に走つたが我軍の温情により彼れが私有財産の家具等は我兵士によつて梱包され大連迄搬送によりそれより塘沽まで海上輸送されたが彼れは我れの温情を無視し、之れが運賃四百餘圓の仕拂ひを拒んだと云ふことである。寫眞は我兵士の手によつて梱包され張學良邸より搬出されんとする彼れが家具其他である

治安維持に努めつゝある奉天



東北軍參謀長榮臻、憲兵司令陳興亞、故張作霖第六夫人、學良の第四名、妹一名の一行は僅かに身を以て奉天を脱出し北平に走つたが參謀長の如き苦力に變裝して奉天を逃げ出したといふことである。寫眞右は此逃亡參謀長榮臻の邸宅である。寫眞下は東山省官銀行の建物。

滿州舊政權の一変に歸したあとに直に新政權獲得運動の標頭電光石火のうちに具體化しやうとしてゐる。寫眞は本庄關東軍司令官より奉天地方維持委員會委員に委嘱された向つて右より金傑、袁金鑑、張生箕、丁鑑修の諸氏である。

日章旗を掲げて皇軍の入城を喜ぶ撫順支那良民



九月十八日日支交戦の火蓋は切られ奉天附近人心惴々たる裡に撫順支那良民は支那兵匪政團の悪政に苦しめられてゐたる反動として悉く戸毎に日本國旗を掲げて皇軍の入城を歡喜して迎へた。寫眞は國旗を掲げて皇軍の入城を待つ撫順の支那良民。

恭親王奉天北陵を展墓日支親善を宣す



日支衝突以來張學良軍閥政府は全く覆へり自治委員袁金鎧氏等奉天に入つて治安維持に努めた、此時に當り奉天國民維持會長に就任した舊清朝の恭親王は北陵に參拜清朝墓前に跪き親しく就任の報告をなし東邦善隣日本の援助を乞ふと宣した、此日沿道の會衆數萬その聲望滿洲新政府との關係に於て内外の注目を惹いた。寫眞は當日北陵前の會衆。

風雲急なる滿蒙の野へ



風雲急なる滿蒙の野へ祖國の守りに急ぐ弘前師團鈴木混成旅團長の率ある將士は品川經由壯烈なる萬歲聲裡に送られて征途に上つた。寫眞は混成旅團品川驛出發の光景である。

天津租界の擾亂——各國駐屯軍出動 (十一月八日)



天津に於て張學良のクーデターに對する反學良派の一派は數隊に分れ暴動を起し支那街の住民雪崩打つて日本租界に逃げ込み大混亂を惹起し各國駐屯軍出動警備に當つた。寫眞は日本駐屯軍の我租界警備の光景で既に土裏鐵條網が要所に配されてある。

馬占山軍第一線の防備



(前頁参照) 此の如くして彼は大見得を切つて中央に宣明して曰く「日本軍は愈々行動を開始した、余は萬死を以て日本軍を撃滅せん。例が我軍の死屍を以て嫩江を埋むとも誓つて日本軍を撃滅し北境守護の鬼とならん」しかしこの好漢氣にも日本の國際決意を洞察することが出来ず遂に大なる犠牲を拂つて遠く海倫に逃れて再舉の機を狙つてるとは笑止千萬である。寫眞は第一線に在る支那軍前線。

馬占山の第一戦線視察



馬占山と云ふは一體如何なる男か、素性を洗へば今から一昔前まで松花江の黒河附近で馬賊を働いてゐた男、數年前黑龍省首席萬福麟氏に見出され黑龍鎮守使に登用されて以來彼れは舊馬賊の同僚を部下とし捺るに力を盡つてゐた。今日の滿洲事件が起つてから彼れは南京政府から省首席に任命され一躍英雄の名を冠せられ北滿の部隊に躍り上つたのである。寫眞はわが軍と交戦直前幕僚を隨へ前線視察中の光景で右背面せるが馬占山である。

千葉鐵道聯隊の一部滿洲に向ふ



今回の日支衝突事變に際し滿洲における我軍の被害甚大なるを以て之れが修理のため鐵道修理業務補充員のため滿洲に鐵道部隊若干名を派遣することになった。此鐵道部隊は千葉鐵道聯隊の一部で十二月六日東京驛發熱誠なる市民の萬歳に送られて一路雪の滿洲増して出征の途に就いた。寫眞上は歩廊に乘車を待つ鐵道聯隊一部の出征勇士。右は萬歳で送る市民の熱狂。

戰時氣分横溢——濱松飛行聯隊出動



滿洲事變のため眞つ先きに輕爆撃機の出動を見た濱松飛行第〇聯隊に對し更に十一月某日重爆撃機の出動命令が行はれた此出動は空軍最大の威力ある精銳である。寫眞は愈々出動に先だち聯隊長の訓示に就て最後の敬禮を行ふ空の勇士である。

雪の曠野に立つ我歩哨と輝く日章旗



塘地附近支那民家屋上に立つ我歩哨

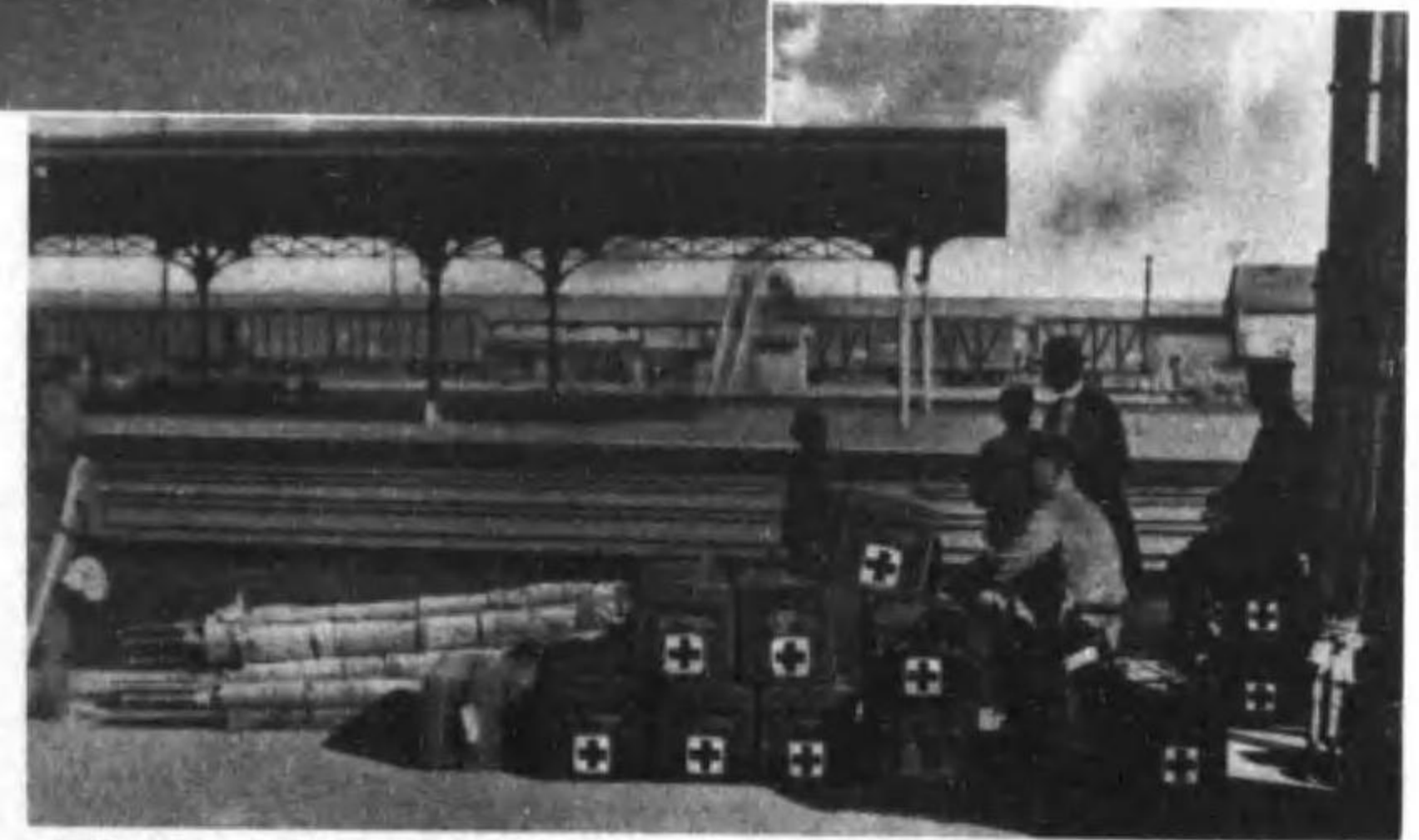


塘地北方高地の塹壕に輝く日章旗



塘地附近に立つ我歩哨

皇后皇太后兩陛下より御下賜の眞綿



皇后、皇太后兩陛下より米野に働く將士に御下賜遊ばされる眞綿は東京府下流の川の蠶糸學没生徒に謹製を命ぜられ、生徒一同は齋戒沐浴して之れに奉仕したのである。寫眞上は同御下賜の眞綿が梱包され東京驛より滿洲に向け發送せらるゝ光景で、下は長春驛より吉林省に向ふ赤十字隊と衛生材料。

昂々溪を占領せる我軍の萬歳連呼



大興屯附近壘内に於ける我軍の活躍



馬占山軍を追撃し進早くも昂々溪を占領した我將士は期せずして萬歳を連呼した。

昂々溪附近に於ける馬軍追撃中の我野砲隊



寫眞右は昂々溪附近馬軍追撃に際し歩兵戦を掩護砲火を敵陣に浴せつゝある我野砲隊の活躍。上は馬占山軍陣地の大壘壕で露國築城影籠に據るものと稱せられてゐる。下は寒氣肌を刺す昂々溪附近警備中の我兵。

皇軍の意氣天を衝くチチハル進撃



十一月十八日大興附近の衝突で馬軍を撃破した我軍は追撃に追撃を重ね〇〇旅團長自ら率ある〇個大隊は崑々溪より鐵道線路によりチチハルに向つて前進し遂に午後八時先頭部隊はチチハル入城直に公安隊及巡警の武装解除を行ひ即刻安民の布告を發した。寫眞は鐵道線路に沿ひチチハル進撃中の我〇〇部隊の奮戦。

チチハルに向つて我〇〇聯隊の猛進



十一月十八日朝來攻勢に轉じた我軍は三間房の堅固な陣地に據つた馬占山軍を砲兵の猛烈の掩護砲撃のもとに歩兵第〇〇聯隊を前進せしめ激戦數刻後敵砲兵部隊を撃破する一方わが飛行隊は我軍の右側背に肉迫した五千の敵騎兵に猛襲を加へて潰走せしめた。敵は崑々溪前面の第二陣地を支へ得ずして潰走し遂に第三陣地及チチハル城を捨て、敗走した。寫眞はチチハルに向つて進撃中の〇〇聯隊と其名譽ある聯隊旗。

皇軍の追撃急——チチハル忽ち陥落

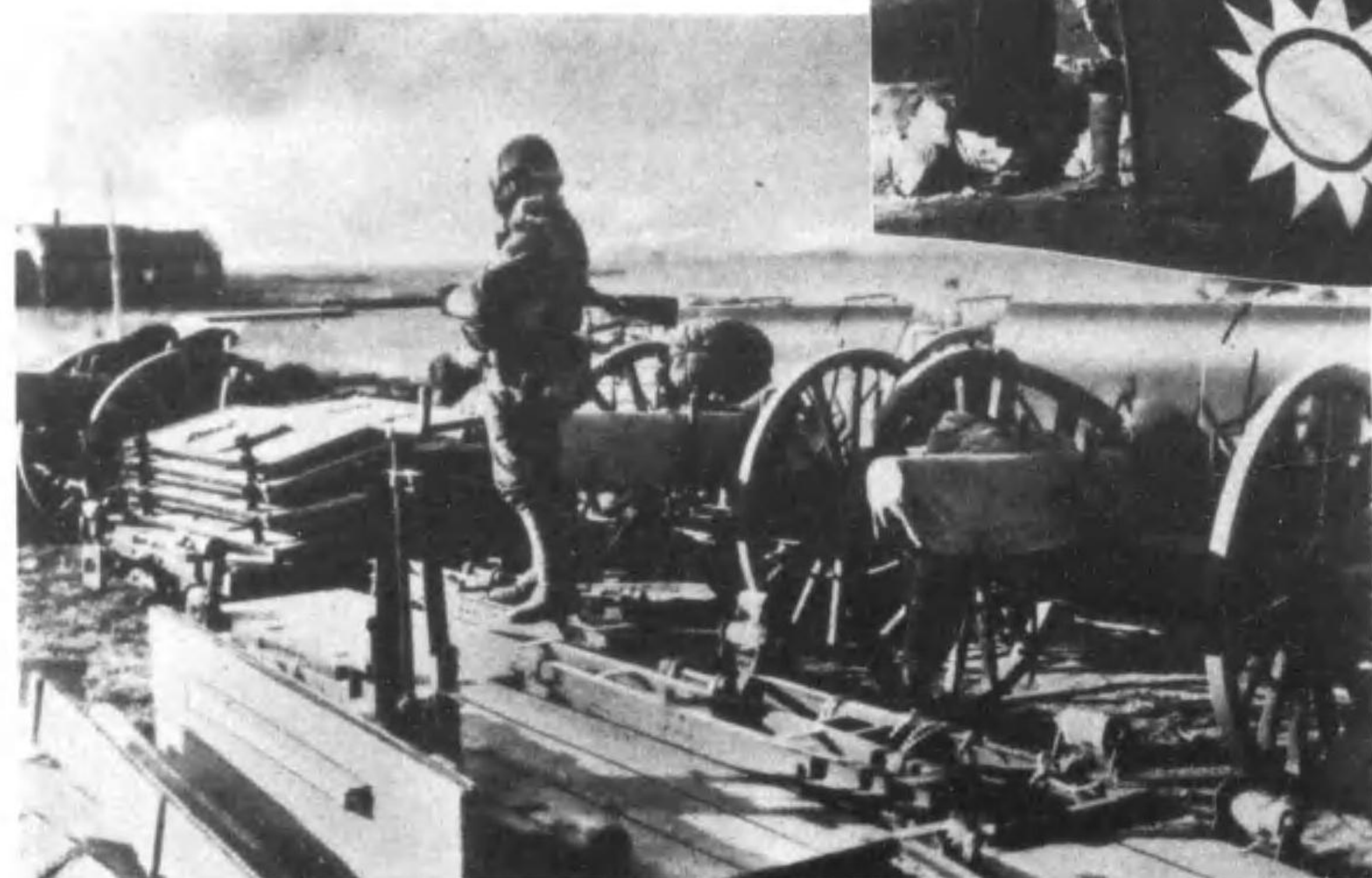


破竹の勢を以て十一月十八日馬軍を撃破し昂々溪を占據した我軍は夜に入り一先づ休養更に十九日未明から馬軍を根底より剔滅すべく追撃戦を開始したが馬軍は前日のわが軍の猛襲に懲り懲りして度々失ひ戦意なく逃げ散るのを追ふて空中と共同戦に移り前進又前進我〇師團司令部は十九日午前十時態々チチハルへ入城した。寫眞はチチハル附近の壘據戦。

躍進又躍進敵軍を威壓す

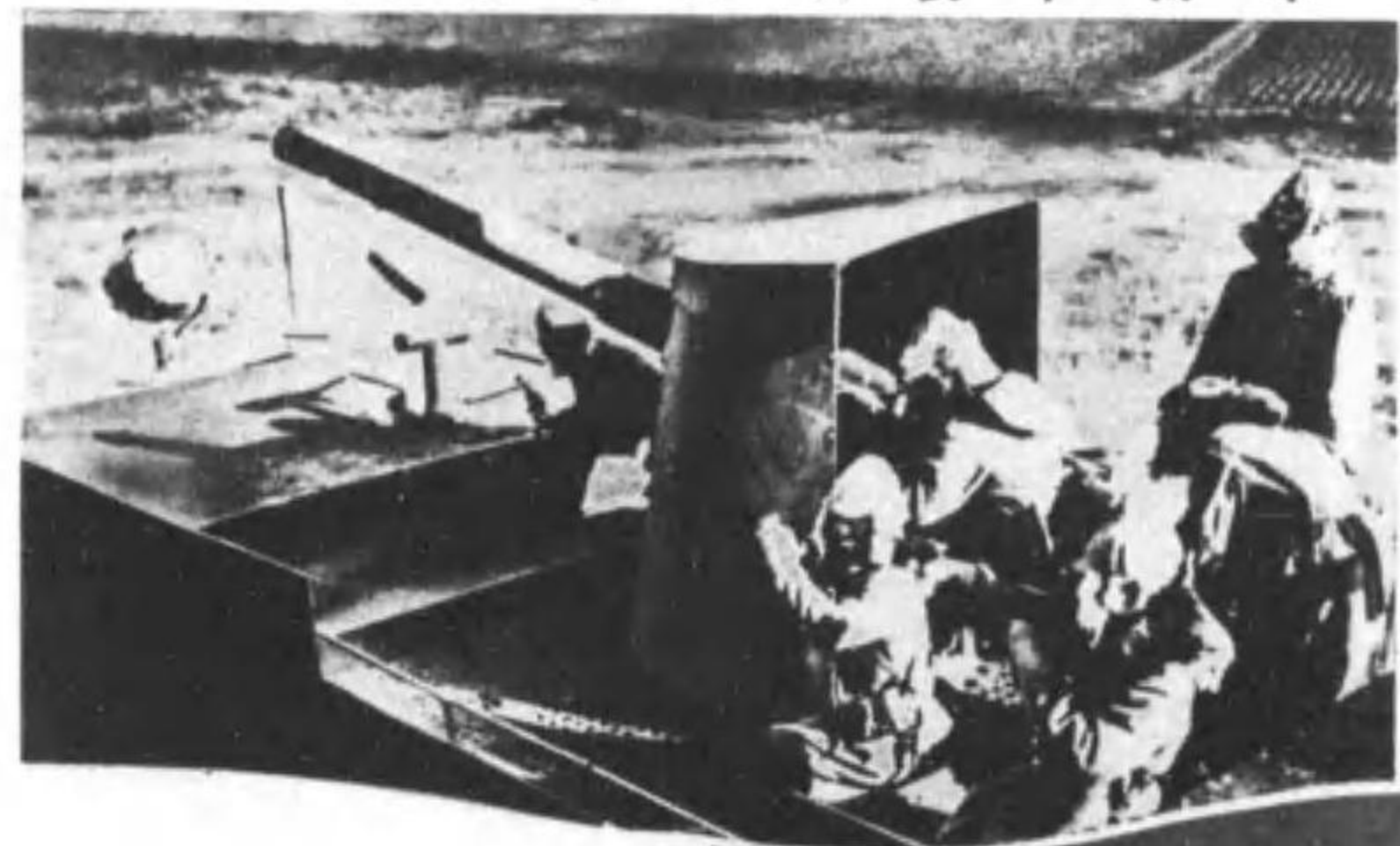


鹵獲せる馬占山軍の野砲と青天白日旗



我軍馬占山軍を急追し遂にチナハム占據に際し敵軍は武器弾藥國旗なども遺棄して潰走した。寫眞上は鹵獲の青天白日旗。下は同馬占山軍の使用せる野砲である。

敵軍追撃中の我装甲列車

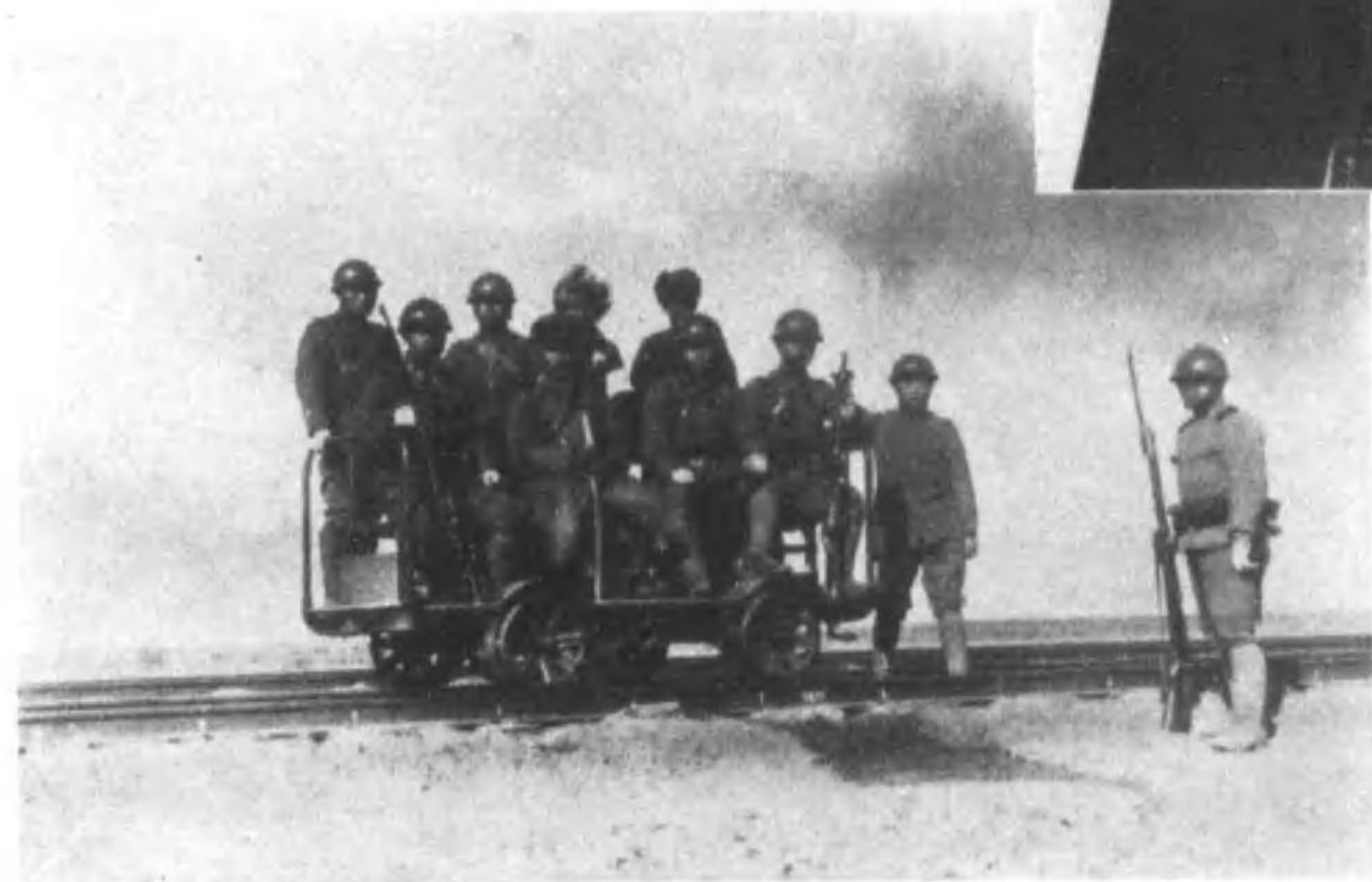


大言豪語の馬占山軍も一度が我軍の攻撃に猛火を浴びせられ先づ第一線崩れ第二線、第三線は跳躍鐵道を利用して彼等一流の退却を始めたので我軍急追、装甲列車は潰走の敵軍に猛火を浴せ遂に完全にチナハムを占據した寫眞は何れも我装甲列車の壯烈なる追撃ぶりである。



鐵道を利用し敵軍急追

洮昂鐵道沿線に退却を始めた馬占山軍は支那特有の運足速く我軍は此鐵路を利用し敵の追撃に移った。寫眞は裝甲列車より退走の敵を急追中の狀景である。寫眞下は洮昂沿線な足踏みトロッコで守備中の元氣瀟灑たる我軍。



馬占山軍擊滅を期して——

聯隊旗を先頭に北滿の曠野に奮戦する我軍



九死に一生を得た山田騎兵一等兵不幸大興東北の黑軍陣地深く進入し奮戦人事不省に陥り敵軍の捕ふるところとなり消息全く絶へ生死一時判明しなかつた山田騎兵一等兵はチヂハル攻撃の際奇しくもチヂハル監獄朝鮮人通譯鄭雪清の依氣により救ひ



出され原隊に復歸することが出来陣中差談として又日鮮融和の象徴として大なる衝動を興へた。寫眞は山田一等兵（仙臺騎兵第二聯隊第一中隊）



第一線に活躍する我が通信隊

わが洮昂聯隊が暴戻なる馬占山軍擊滅を決意し奮然として壯烈なる總攻撃を開始した十一月十八日の拂曉蒙古の原野は零下正に二十度ここに我飛行隊の爆撃、砲聲の轟きやがて連射砲の射撃は今正に修羅の輪巻を現出した。寫眞は大興方面に於ける馬軍と對抗中の我部隊。

一躍支那第一の英雄視さるゝ馬占山と娘子軍



胡沙吹く内蒙古——北滿の地嶺江河畔に日本軍の兵力の約十倍の大兵を擁するとは云ひながら無敵の我空軍を向へ廻し戦を挑み遂に惨敗し、身を以て海倫に逃れた黒龍江首席馬占山は我軍と一戦を交へざる迄は支那第一の英雄になりすまし有頂天となつて即ち支那一流の白髮三千丈式の通電を全國に發して中外に大見得を切つてゐた好漢である。寫眞右は新聞廣告に利用された馬英雄馬占山と左は馬占山軍に之れは又珍らしき娘子軍の兵士。

滿洲の曠野に活躍する我軍用犬



酷寒の滿洲の野に人も及ばぬ働きをなすものは我軍用犬である。即ち彼等は命令一下、敵陣を潜びつゝ傳言に或は鋭敏なる嗅覺に依つて巧に敵の所在を發見する等其活躍は皇軍の一員として實に誇りまじきものである。寫眞は我守備隊の軍用犬エヌ號(左)Fロ號(右)がまさに敵陣地に向つて偵察に出動すべく、兵士の命令を待つてゐるところである。

日章旗を騎して我騎兵チチハル入城
英靈永へに幸あれ



チチハル舊市街日本人墓地に埋葬せる河野大尉以下忠勇なる戦死者の納骨塔の前に英霊永へに幸あれと戦友を弔ふ我將兵。



皇軍チチハル入城の偉觀

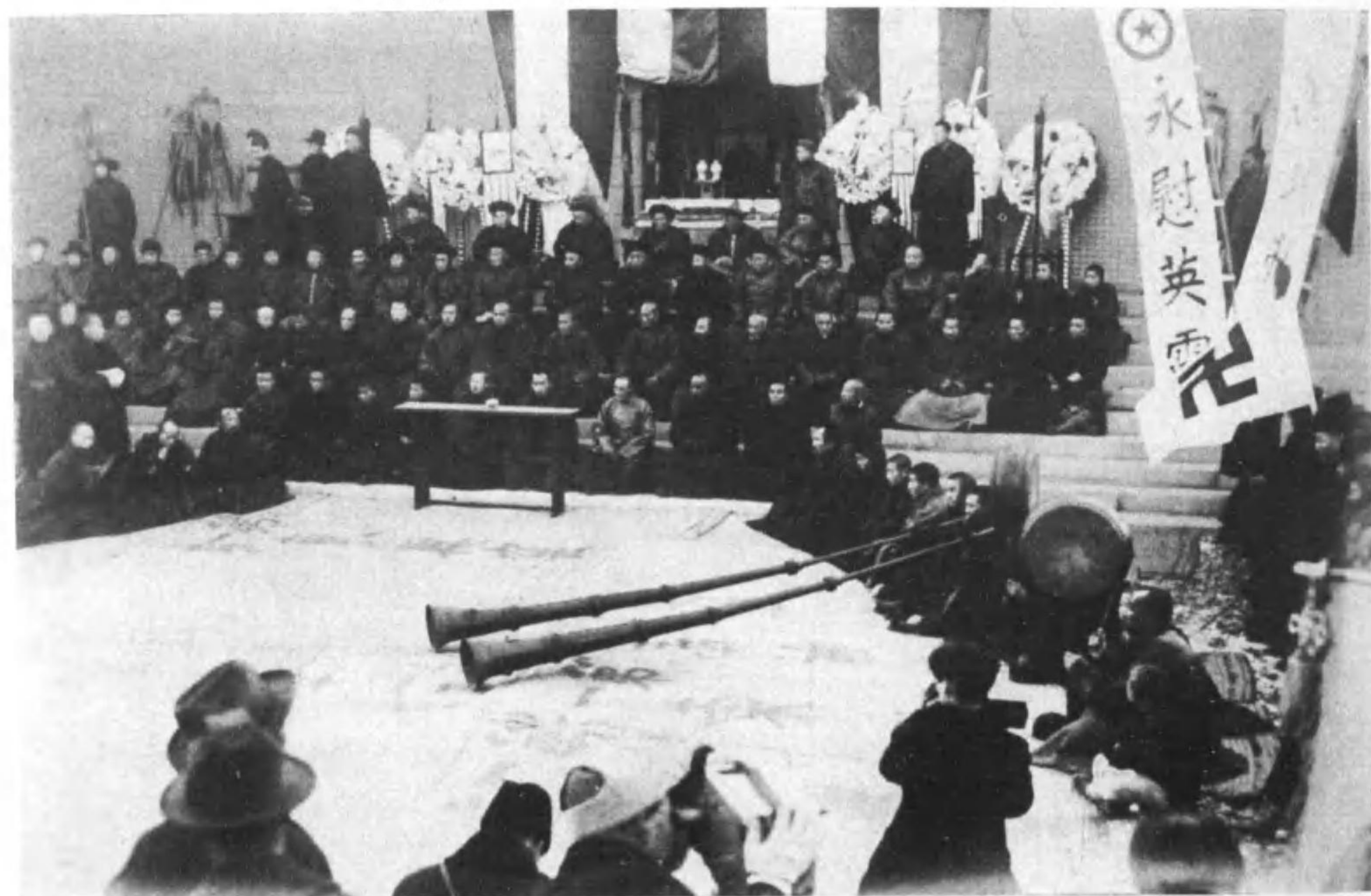


チチハルに到着せる殊勳の我裝甲自動車



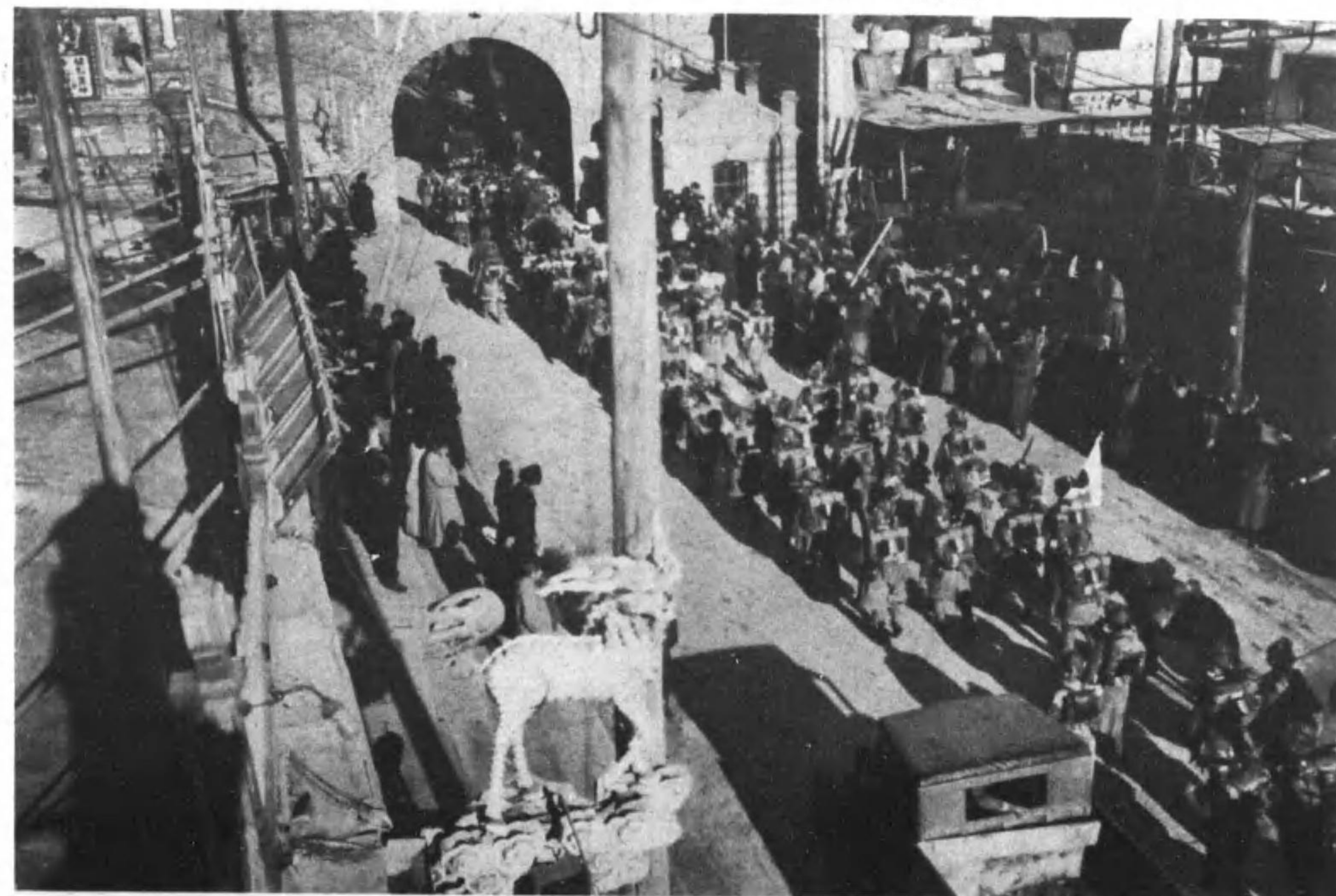
我軍チチハル入城の大示威行進

我 戦 死 者 を 喇 嘛 僧 も 供 養



滿洲各地において内外宗教團體は今次の滿洲事變の犠牲となつた我戦死將士の靈を慰めつゝあるが奉天の蒙古喇嘛僧二百名奉天忠靈塔にてわが將士哀悼大讀經をなしさらに跳鬼會を行ひ小西邊門黃寺において慰靈讀經をなした。寫眞は喇嘛僧供養の光景。

步 武 堂 々 子 子 ハ ル 入 城 の 鈴 木 旅 團



十一月二日夜チチハル著一夜を列車中に明かした鈴木旅團の各部隊は三日午前十時よりチチハル市内を示威行進の後北大營に入つた。寫眞はチチハル市内示威行進の鈴木旅團の各部隊。

敵を木葉微塵に粉碎した我空軍の精鋭 戦友の英霊永へに安かれ



今回の日支交戦に於てわが飛行隊の活躍は實に目覚しきものである。殊に大興、三間房、昂々溪激戦の際の如き爆弾に機關銃に、神出鬼没の秘術を盡くし地上諸部隊と相俟つてチチハル占據を容易ならしめ其武勳赫々たるものである。寫眞は長春附近〇〇根據地に翼を休めたわが空軍の精鋭。下は滿洲の曠野に永へに眠る戦友を弔ふ我將士。

チチハル城に於ける鈴木旅團長と幕僚



昂々溪激戦を経て十八日午後八時チチハルに入城した我第一線交戦部隊はこれを集結して原地に歸還せしめることになつたので交代の新鋭部隊は直ちにチチハルに入城した。寫眞はチチハル入城の新鋭鈴木旅團長と其幕僚である。

八勇士の遺骨故郷をさして



満洲、天津兩事件の
難い犠牲者—戦死二百十二人
今度の満洲天津兩事變の犠牲者につ
いて陸軍省の調査によれば、わが軍
が寡兵を以て十数倍の大敵と戦はれ
ばならなかつた關係から、犠牲者
は意外に多く、十二月二日までの調
査で戦死者二百十二名、戦傷者四百
七十四名となつてゐる。これ等犠牲
者の最も多いのは仙臺第〇師團で總
數四百卅名、次は關東軍の百五十七
名、混成第〇〇〇旅團の九十三名、
憲兵隊二名、軍屬四名の順序で、天
津事變では戦死二、負傷四である。
又犠牲者の一番多かつた戦間は昂々
溪、嫩江、宣威子、南嶺の順である。



九月廿八日夜中一櫻崗の激戦で名譽の戦死を遂げた若松第〇〇聯隊第五中隊長故栗原少佐をはじめ海城、嫩江で戦死した中田伍長、菅家、遠藤、三保三上等兵及獨立守備隊第二中隊の戦死者合計八勇士の遺骨及遺留品は加藤曹長以下廿七名に護られて神戸へ歸着東京經由會津若松の所屬地へ歸つた。寫眞は八勇士遺骨奉天驛着、別圖は奉天驛貴賓室にて我移留民の饗會である。

新發田聯隊經理部十七士奮戦の跡



鬼哭愁々



敵軍の追討に
奮戦した新發田聯隊經理部十七士
の遺骨が、この地に埋められた。この地は、
戦時中、新發田聯隊經理部の士たちが、
敵軍の追討に奮戦した場所である。この地は、
戦時中、新發田聯隊經理部の士たちが、
敵軍の追討に奮戦した場所である。この地は、
戦時中、新發田聯隊經理部の士たちが、
敵軍の追討に奮戦した場所である。



十一月十八日、新發田聯隊經理部の士たちが、
敵軍の追討に奮戦した。この地は、戦時中、
新發田聯隊經理部の士たちが、敵軍の追討に
奮戦した場所である。この地は、戦時中、
新發田聯隊經理部の士たちが、敵軍の追討に
奮戦した場所である。この地は、戦時中、
新發田聯隊經理部の士たちが、敵軍の追討に
奮戦した場所である。

編隊を前にして勇躍の派遣兵



雪の曠野に極寒と戦ふ在滿部隊の衛生隊補充は第〇師團管下より編成せられ十二月一日滿洲派遣隊長轟原少佐指揮の下に出征の途に就いた。寫眞上は編隊を前にして勇躍の派遣兵と寫眞下は轟原派遣隊長(左)と激勵する和田中佐。(大阪第〇師團管下にて)

一視同仁—奉天赤十字病院に收容の支那軍負傷兵



暴戻恫くなき支那兵の行動に對しても我赤十字病院はその本旨の命ずるまゝ負傷病者に對しては一視同仁の取扱ひをしてゐる。寫眞は奉天赤十字病院に收容中の支那軍負傷兵に對し手厚き治療を施しつゝあるところ、支那兵統率者見て以て懺悔せざるところなきか。

天津の日支開戦——我軍猛射を浴せ掛く



十一月八日の天津第一次暴動により各租界警戒を續けたが漸く平靜に歸したので同月廿六日午後我義勇隊が解散し警戒を緩和せるに乘じ午後八時半敵は突如天津日本兵營西方地區より重砲を以てわれに對し射撃を開始し第一線は直に火線につき猛射を以て之に應戦した寫眞は歩兵砲機關銃を以て應戦中の我駐屯隊。

天津の各國駐屯軍共同戦線を張る



天津日本租界を目標とせる支那軍は十一月廿七日突如攻撃を開始した、それがため日本軍の警備は益々眞剣となり義勇隊は不眠不休状態で防備に努力した。一方天津駐屯各國軍高級參謀は我軍司令部に來り支那側の背信不法に憤慨し我軍と共同戦線を張り租界の治安に當つた。寫眞左は我陸戦隊の租界防備と右は支那側の砲弾に見舞はれた伊國租界を警戒中の伊太利駐屯軍。

塘沽に於ける我驅逐艦上の警備



支那側は天津我租界に盛んに砲弾を送りつゝ一方手なカへ總領事館を通じ停戦方を嘆願し來たが彼は誠意なく砲撃をやめざる専横暴
戻の行動なしてゐるので我軍は固より休戦提議に應ぜず盛んに應戦し塘沽碇泊中の我驅逐艦に出動方を促した。寫眞は塘沽に於て我驅
逐艦上の警備である。

塘沽に於ける我驅逐艦上の警備



十一月廿六日夜より天津第二次の暴動により以來日支は全く交戦状態になつたので、わが駐屯軍は居留民の安全を期し塘沽碇泊中の
驅逐艦に對し既に交戦状態に入れるにつき、わが商船の出入港に當り掩護の目的達成のため適當の行動をとられたしと通告したので我
驅逐艦では直ちに之れが掩護任務に就いたのである。寫眞は我驅逐艦上の警備。

馬賊匪賊の徹底的掃蕩を期する獨立守備隊



寫眞は遼河一帶の馬賊匪賊を掃滅して湯崗子に引揚げた我騎兵隊である。見よ北滿の平野は白雪に覆はれ零下正に三十度。總ての河は氷結して馬賊匪賊の出沒横行の季節出征將士が彼等掃討の苦心察するに餘りあるものである。

遼河一帶に亘つて馬賊團を掃滅



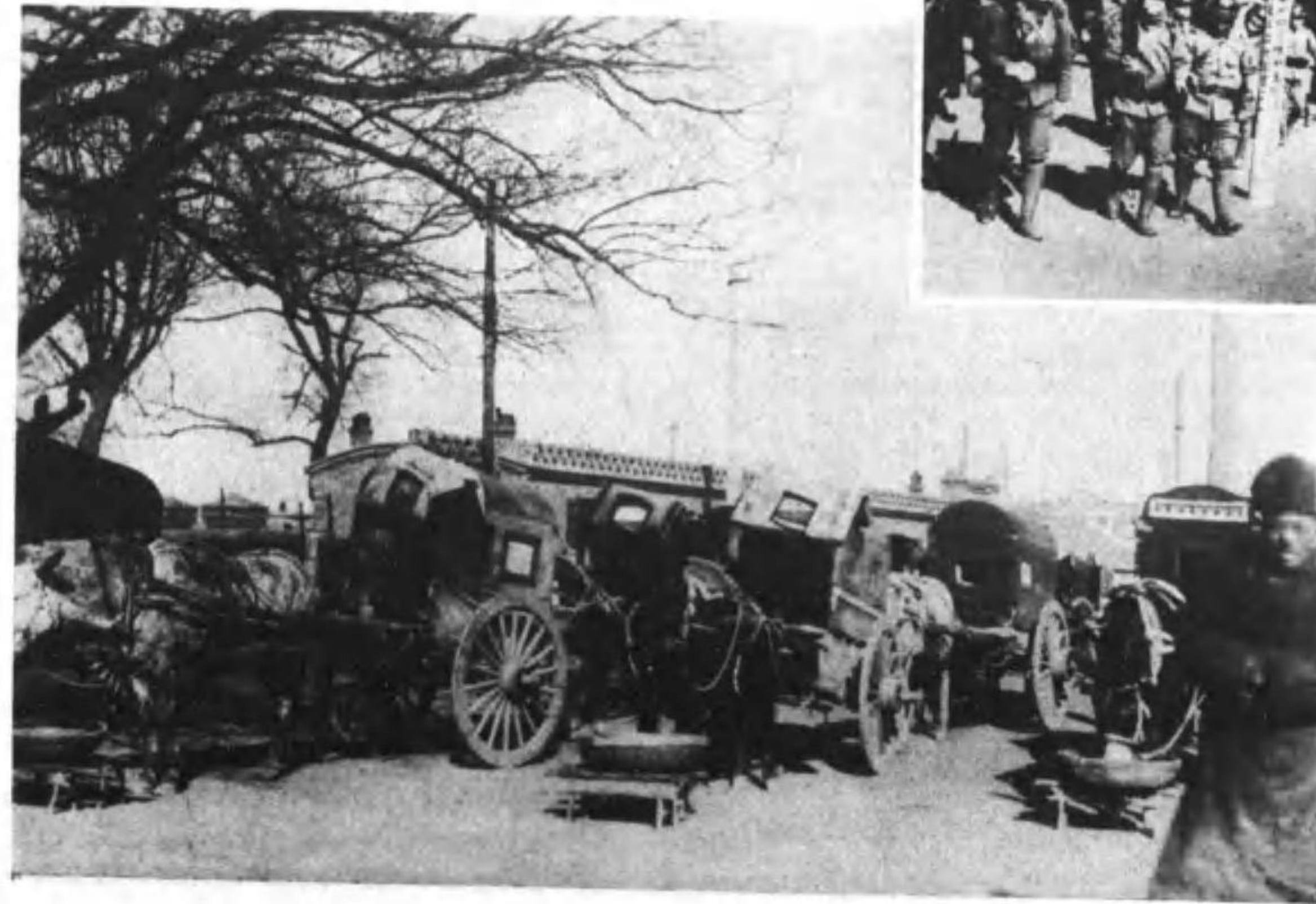
滿鐵沿線に出沒跳梁暴威を逞しうする馬賊團を掃討し盡す目的で我獨立守備隊の一部は先づ湯崗子を出發滿鐵沿線以西遼河以東一帶に亘る馬賊團を潰滅しめでたく目的を達して全員出發地湯崗子に歸還した。寫眞は正に討伐に出發せんとする守備隊司令部。

武勲の平田聯隊二月半ぶりて奉天歸還



九月十八日の深更北大營の砲聲に日支衝突の火蓋を切るや時を移さず奉天城に突進一番乗の功を立て遠くチチハルにまで第一線に臨み武勲をあらはした若松第二十九聯隊はチチハル治安維持の任務を鈴木旅團に委ね十二月三日砲彈彈雨なくぐり幾多勇士の鮮血に染められ武勲に輝やく聯隊旗を先頭に聯隊長平田少佐以下第一第二大隊は意氣揚々として奉天驛に歸還し日吉町の營舎に征衣を脱いだ。實に征旅七十五日の歸還で將士も雪やけの顔に包み切れぬ喜色を漂はしてゐた。寫眞左は聯隊長室に防寒具を脱ぐ平田聯隊長と星聯隊旗手、右は同じ懐しの兵舎内に戻つて来た喜色満面の兵士達である。

錦州軍に備へ、殊勲の多門師團鄭家屯に到着



揮やく皇軍の武威
 錦州軍を背後に持つことを唯一のためとして日本軍何ぞとわが皇軍を輕侮してゐた馬占山が皇軍に鋒先を向けて以來甘餘日惡戰苦闘その不落を誇つたチチハル城を陥れ威動甚々たるわが第〇師團長多門中將は戦闘の疲れを癒する間もなく〇〇〇〇方面急變の報に接し急に其主力を提へチチハルを出發十一月廿八日鄭家屯に到着、一表夜に近い軍用列車の長旅の疲れなど色にも見せず意氣天を衝くばかりである。寫眞上は師團の主力鄭家屯に到着の光景下は錦州城外支那馬車の輻輳。

高臺子の戦に捕へられた馬賊の二頭目



寫眞は高臺子の戦に於て最後まで我軍に抵抗して遂に捕へられた馬賊の二頭目、右は王、左は劉と稱せるもの。

兵 匪 討 伐 中 の 我 軍



我軍北寧線上より撤退後兵匪著しく跳梁を極めたるためそれが掃討を期して各所に兵匪討伐を行った、寫眞は新民屯附近に於ける兵匪討伐中の我歩兵隊である。

日本兵隊さん菓子下さい！



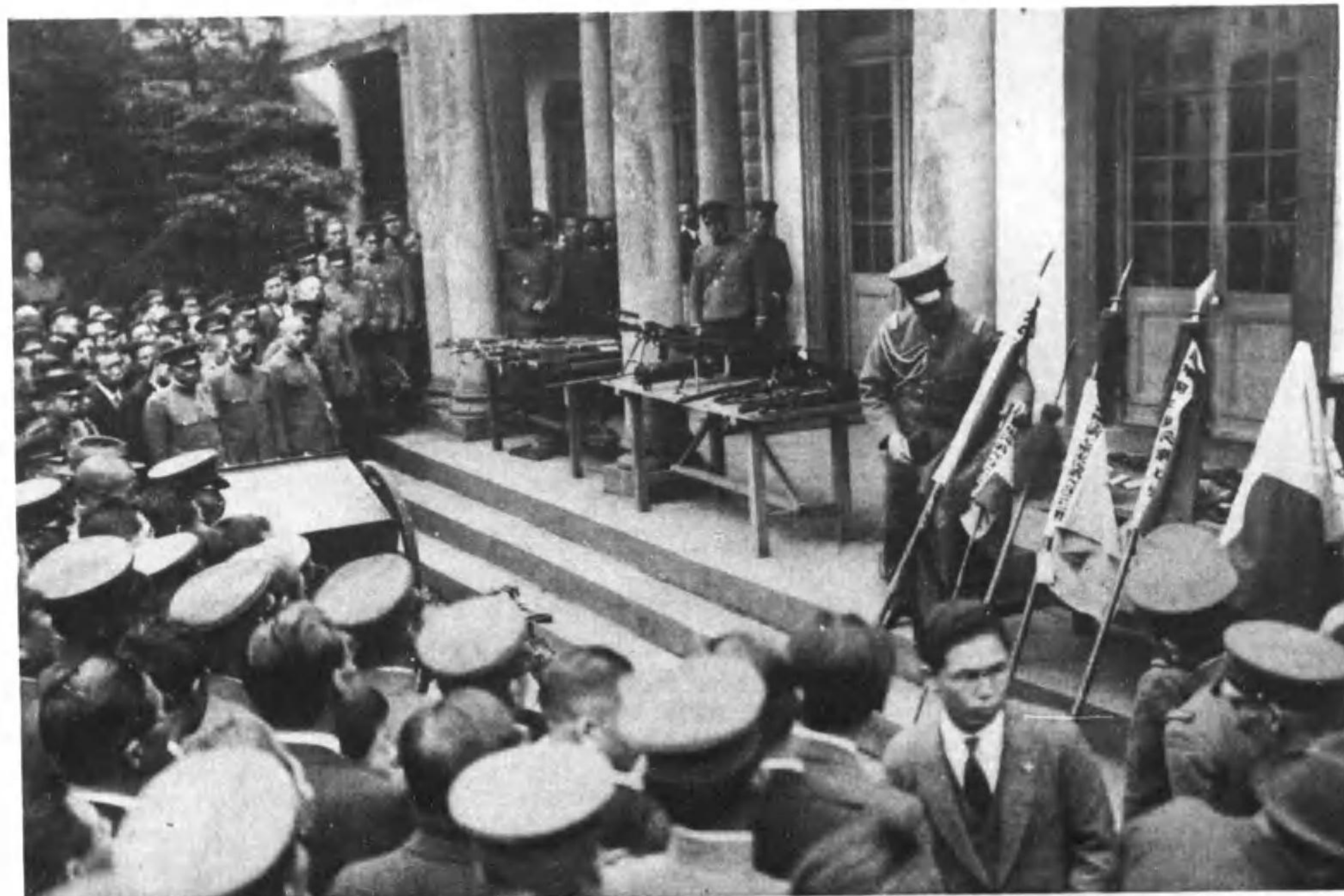
我將士は支那特有の掠奪暴行とは全く反對に菓子等を支那子供等に呉れると云ふので軍用列車の着く毎に到る所の驛に支那人子供が殺到窓から投下さるゝ菓子等を取り合ふのである。寫眞は新屯驛に於ける所見であるが、此狀景によつても皇軍將士の温情が窺はれるのである。

各部隊續々天津へ



滿洲に出動中の朝鮮軍○○聯隊は十一月廿八日奉天に歸還するや休養の暇もなく直に天津に出撃を命ぜられ奉天發大連に向ひ廿九日大連發御用船で即日海路天津に急行したのである。寫眞は大連埠頭にて増進部隊乗船準備中の光景である。

皇軍を悩ました支那兵器



寫眞は川岸侍從武官が滿洲から歸京の際持歸つた兵器で何れも南嶺、北大營激戦に東北軍が遺棄したものである。同兵器の多くは外國から踏み倒し主義で買入れたもので平射歩兵銃、自動銃、輕機關銃、重迫撃砲など何れも新兵器揃であるが指揮刀とか軍刀類となると三國史時代そのまゝの青龍刀ばかりである。

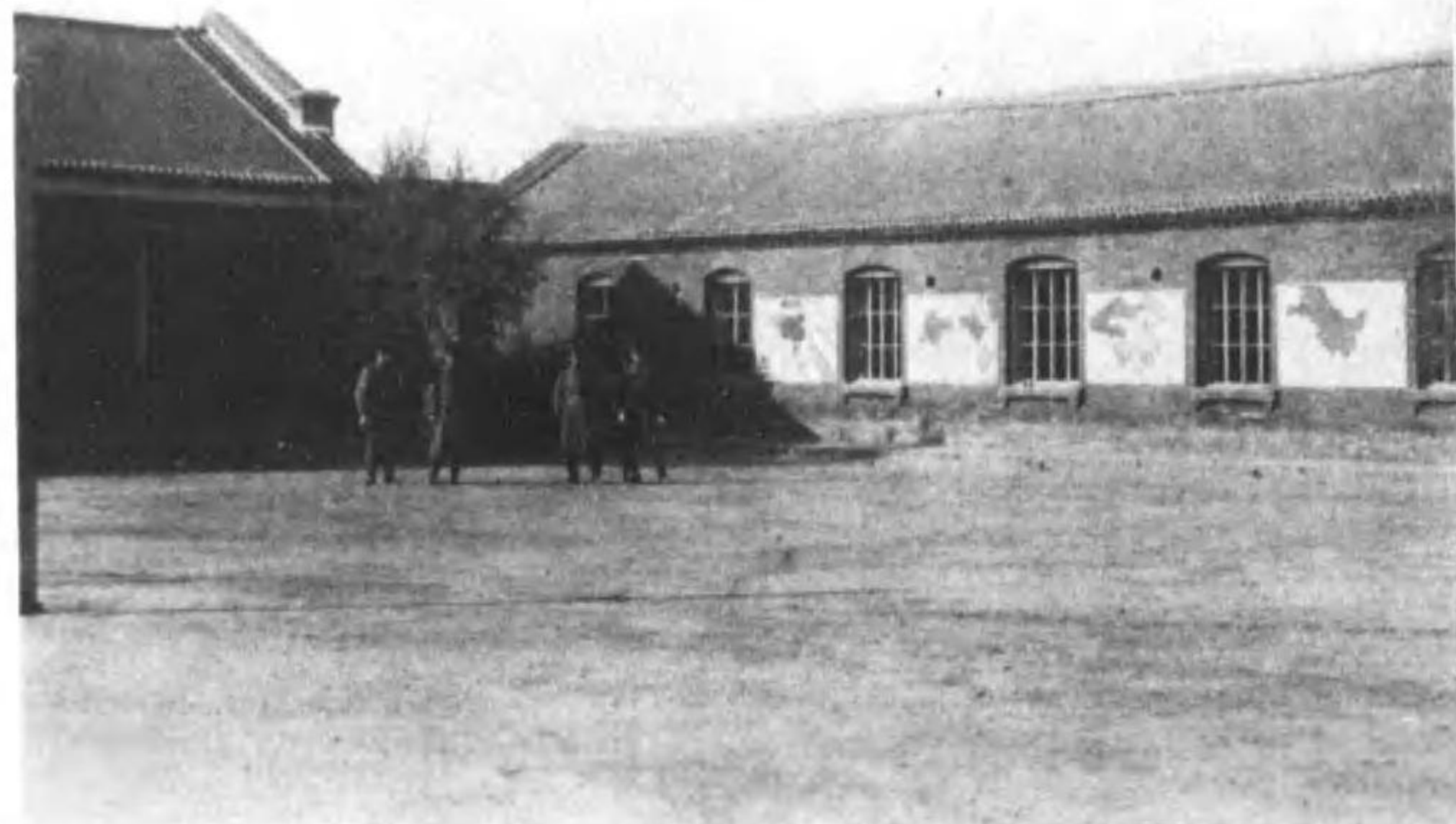
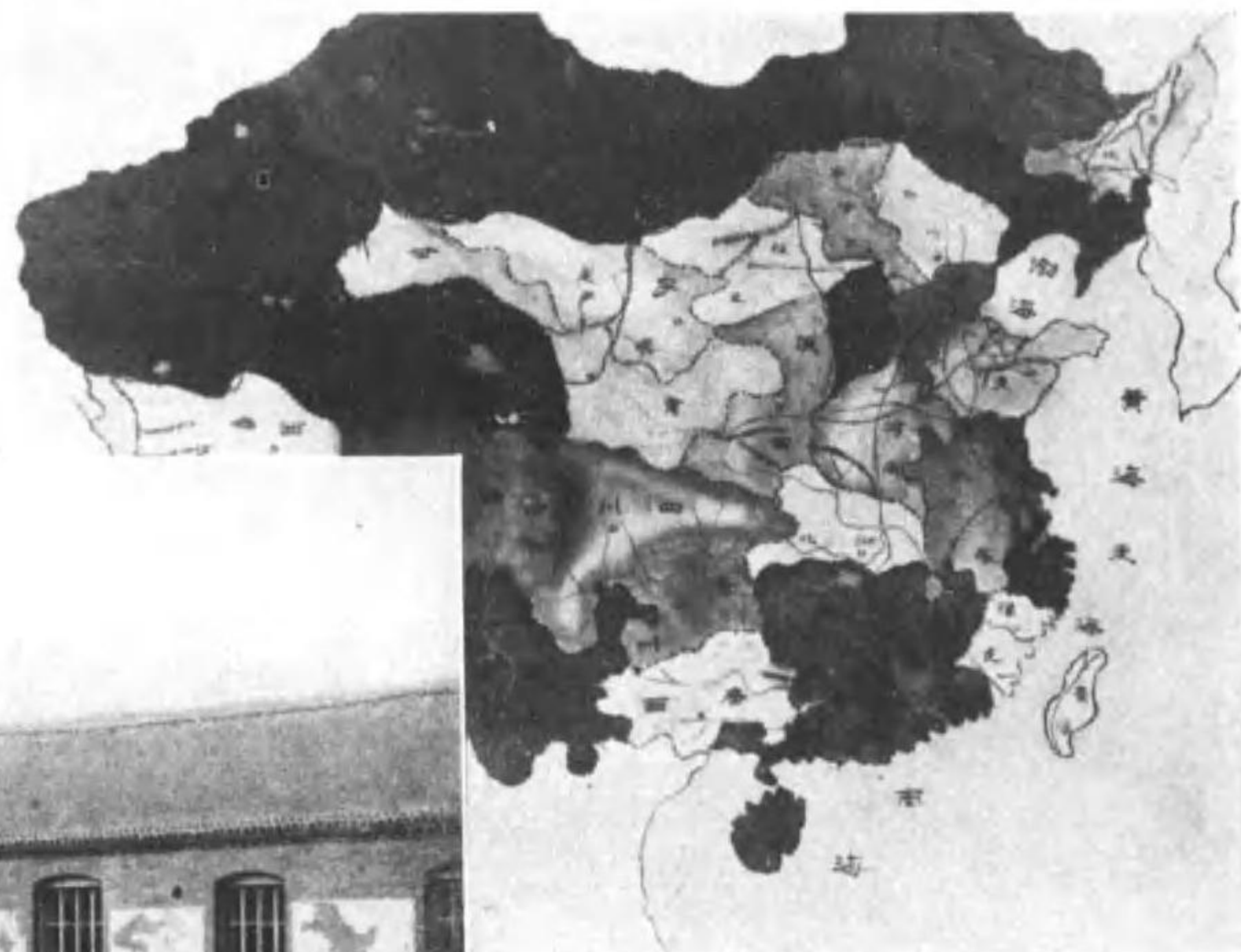
新民公安隊武装解除せらる



新民縣の公安隊は日本軍の到着と共に一部分はいつれかに逃亡したが大部分は我軍のために一も二もなく武装を解除せられた。寫眞は解除した公安隊の山と積まれた武器、中には手榴弾等も見える。

排日宣傳も寧ろ滑稽に過ぎて憫むべきである

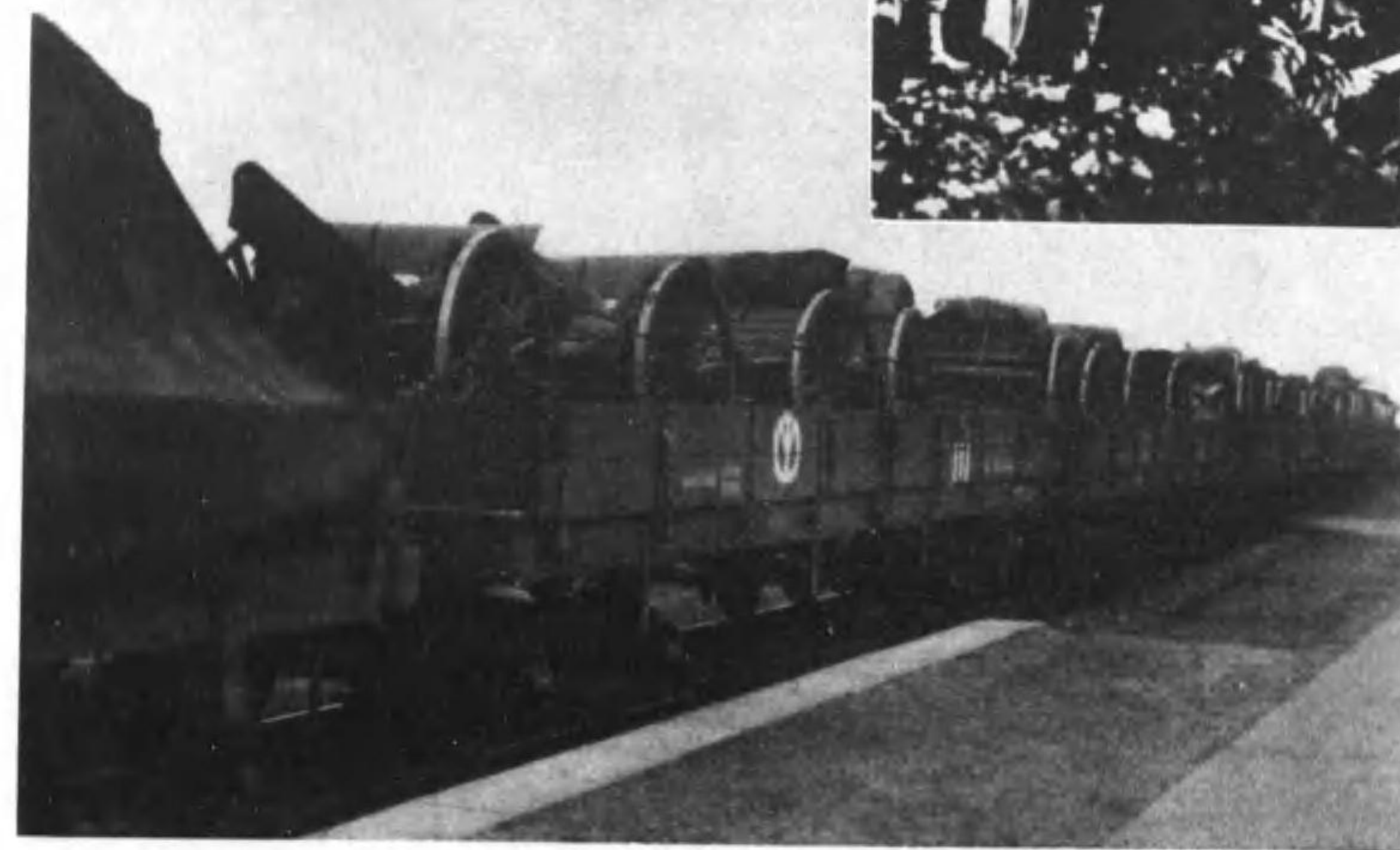
支那の排日運動は宛も年中行事の如く「打倒日本帝國主義」とか「日貨抵制」と云ふが如き示威的出来事と考へられ、然るに其運動は漸く組織的となり殊に其傾向は近年南支方面に止まらず滿蒙に於ても盛んに行はれ軍隊、學校等に對する宣傳、教育等も國民政府が主體となつて訓令を發し、軍歌、唱歌等を作つて公然之れを合唱せしむる等排日氣勢を高潮さすべく全力を注いだのである。勿論彼等の宣傳の方式たるや飽くまでも支那式の無責任極まるもので事實を曲歪し荒唐無稽日本の壓迫は誇大に列舉し以て無智な兵隊や純眞な子供の腦裏を誤らしめてあるが實にその手段の陋劣は悪むべきよりは寧ろ憫むべきものである。



寫眞は奉天小學校々舎に貼付した支那得意の宣傳術による亞細亞人勢地圖で太平洋上より我帝國の所在を削除したる寧ろ滑稽味の教育手段である。

鐵道に依り前線へ砲車輸送

張學良が牙城となつた錦州に續々各兵の集結を行ひ十一月廿三日奉天襲撃の對日積極行動に出でんとしたので我軍は滿鐵沿線の敗兵馬賊を攻撃し空中爆撃を行ひ錦州軍の進出を反撃すべく決意装甲列車の出動を見た。寫眞は前線へ送る砲車の汽車輸送。



北寧線進出の我装甲列車

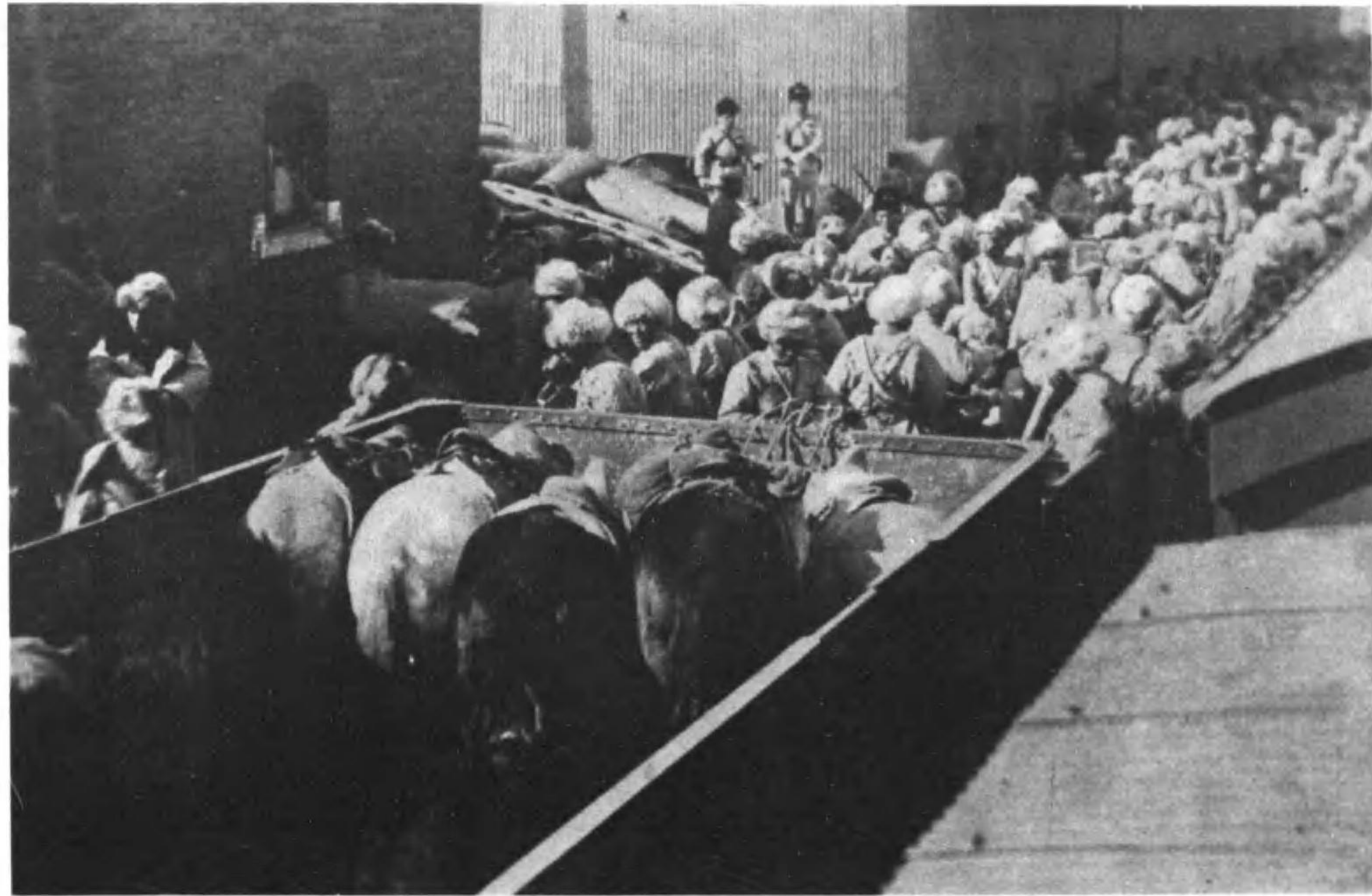


白旗堡附近我軍の散兵陣地 (十一月廿七日)



錦州奉天軍は天津に於ける日支兵衝突に呼應し北寧線白旗堡(新民縣西方)方面の前衛部隊は俄然日本軍に對し攻勢に出て來たため奉天駐屯〇〇聯隊に出動命令下り同隊は装甲列車で出動白旗堡鐵場河附近に戦つて大に錦州軍を破つた。寫眞は白旗堡附近敵と對戦中の我軍歩兵部隊である。

錦州附近に集結する奉天軍の精銳



錦州及其以東に在る張學良軍は北寧線上に進出の我が軍全部が撤退せるを機として盛んに増兵し東進の氣勢を示すに至つた。其数は歩兵五箇旅にして一萬五千以上に上り更に砲兵騎兵、等の混成旅を合し警戒すべき状態にあつた。寫眞は精銳を誇る正規軍の騎兵錦州附近に集結中の光景である。

我軍のため軍需品輸送中の支那苦力



秩序も節操もなき支那の兵隊さん、もとなげば苦力や馬賊の化身である。即ちお金欲しさの傭兵で、掠奪暴行を餘徳としてゐる彼等、一度軍服を身に纏へば苦力に勞役を課しても、微費をやつても代償をしないことなどは茶飯事の如くに考へてゐるが、そこへ行くと皇軍は彼等の勞役に對しては相當に代償をしてゐるので受けが最もよい。寫眞は支那苦力が我軍需品の運搬にいと朗かな顔をして従事中の光景である。

愛の使命の下に



慰問のまごころ捧げて女子青年代表歸る
 滿洲派遣軍慰問のため滿洲各地を歴訪して
 我軍將兵に温かい言葉と慰問品を贈り終った
 全國女子青年團代表は十二月四日無事東京
 に歸り其任を全うした。寫眞は四代表

愛の使命を帯びて渡滿の嬌風
 會の二長老

人道の光愛の方によつて滿蒙を掩ふてある
 時雲が一刻も早く拭へますやうにと嬌風會の
 長老大阪の林歌子、東京の久布白落美の兩女
 史は平和の使徒として陸軍御用船うる丸に
 便乗渡滿し大連を振り出しに奉天・長
 春・ハルビンに赴いた。寫眞は出發の
 ところ右、久布白、左、林歌子兩女史



いざさらば！

寫眞左我軍チ、ハルの馬古山軍と會
 戦の直前出動命令を受けた濱松飛行隊
 出發に於ける之れを見送る出陣軍人夫
 人及家族の群れ



皇軍を思ふ女性の優しき心意氣



最寒に苦闘する在滿の我將士の爲めに或は送拜に或は、千本針彈丸よけ腹巻製作奉仕に或は慰問金募集にと街上市進の眞心こめたそ
 の情景こそ涙ぐまじきものである。寫眞下は都下女性聲樂家連の慰問金募集。上は都下湯谷の藝妓ケル六十餘名の一隊二重橋前に整
 列戦勝健康祈願の送拜である。

錦州の問題を装ふ静寂



唯一のたのみとした馬占山軍潰滅の報に接した張學良は狼狽其極に達し事變後北平に引揚げた正規兵を續々錦州に送り防備を一層嚴重にして日本軍に對抗し、我軍北寧線上撤退後は攻撃態度露骨となり別働隊を放つて盛んに瀋陽沿線を擾亂せしむるやうになつた。寫眞は嵐の前の静寂を保つ問題の錦州の街である。

北寧線上出動中の我軍突如原駐地へ歸還



北寧線によつて行動を開始し饒陽河に進出したわが鈴木○○旅團及び獨立守備隊は十一月廿八日總攻撃に入らんとせる刹那突如原駐地歸還命令が下つたので止むを得ず一先づ原駐地歸還の行動をとつた。寫眞は北寧線上より撤退せんと一先づ休憩中の我軍部隊。

馬 占 山 陳 謝 の 意 を 表 す



「余は萬死を以て日本軍を撃滅せん」と會て大言豪語した馬占山も齊々哈爾濱戦遠く海倫に逃れてより心身共に消衰の有様で彼れが對日戦闘行爲は部下の誤解であると我軍に對し陳謝の意を披瀝しそれで張景惠首席下の黑龍江省政府の參謀司令に任命せらるゝことになつた。寫眞は馬占山の和服姿。

奉 天 城 内 に て 逮 捕 さ れ た 便 衣 隊



續く敗戦に焦慮の張學良は馬賊を買収別働隊、便衣隊の名を以て滿鐵附屬地を擾亂してゐる。寫眞は十二月二日、奉天城内に潜入した便衣隊が逮捕され公安隊に拉致せらるゝところである。尙此日は奉天城軍憲兵隊視察軍曹が學良派遣の便衣隊に襲はれ腹部貫通銃創を受けた日である。

巡 察 中 の 我 鐵 道 守 備 隊



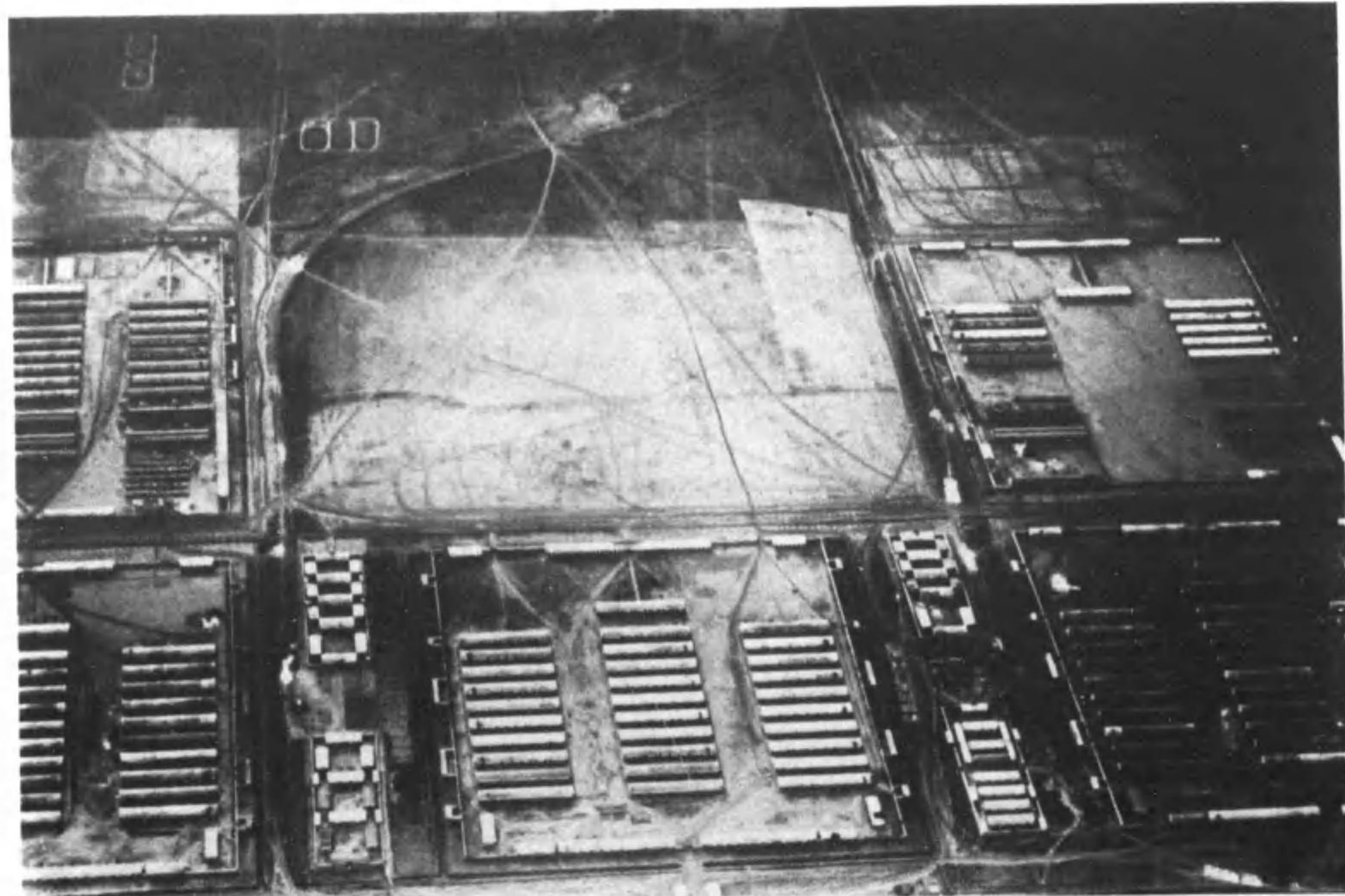
學良の別働隊便衣出沒して鐵道線路を破壞するので軍隊輸送上の萬全を期するため雪の曠野に我鐵道守備隊は零下の酷寒と戦ひつゝ巡察を怠らない、其苦勞も亦想像に餘りあるものである。

遼 河 守 備 隊 張 學 良 別 働 隊 と 衝 突



聯盟理事會は終幕せるも匪賊の出沒尙懸ます十二月十三日北寧線瓦流河鐵橋上流附近の我遼河守備隊の一部は張學良別働隊七十餘名の包圍攻撃を受け全滅に瀕したが遂に瓦流河部隊の出動に依り之れを撃退し敵の所在地藍旗堡子を完全に占據した。寫眞は警戒中の遼河守備兵。

錦州の砲兵工廠と兵營 (空中撮影)



戦機切迫の錦州は學が死守を命ずるまゝに凡ゆる防備を加へ殊に根城たる錦州城外の防禦設備は思ひ切つて入念に施し其兵數約三萬七千と報ぜられてゐる。寫眞は飛行機上より撮影の錦州砲兵工廠と兵營である。

錦州軍集結中の打虎山兵營 (空中撮影)



打虎山は北寧線上打石線の分岐點で錦州軍前線六部隊の集結地で市街の北部北寧線の鐵路を中心に諸種の防禦設備を施してある之れより北上した彼陽河、白旗堡は十一月廿七日に日支兩軍が珍らしい裝甲列車遭遇戦が演ぜられた所である。寫眞は飛行機上より撮影の打虎山市街と其附近である。

雪の山海關平野の散兵



錦州に在る張學良軍別働隊、兵団等の活躍漸く露骨となるに伴ひ山海關方面また不安に襲はれ遂に山海關秦皇島間の鐵道破壊等の行爲があつた。寫眞は我守備隊が雪の山海關平野に於ける散兵戦である。

我鐵道聯隊の活動と雪の兵營附近の守備



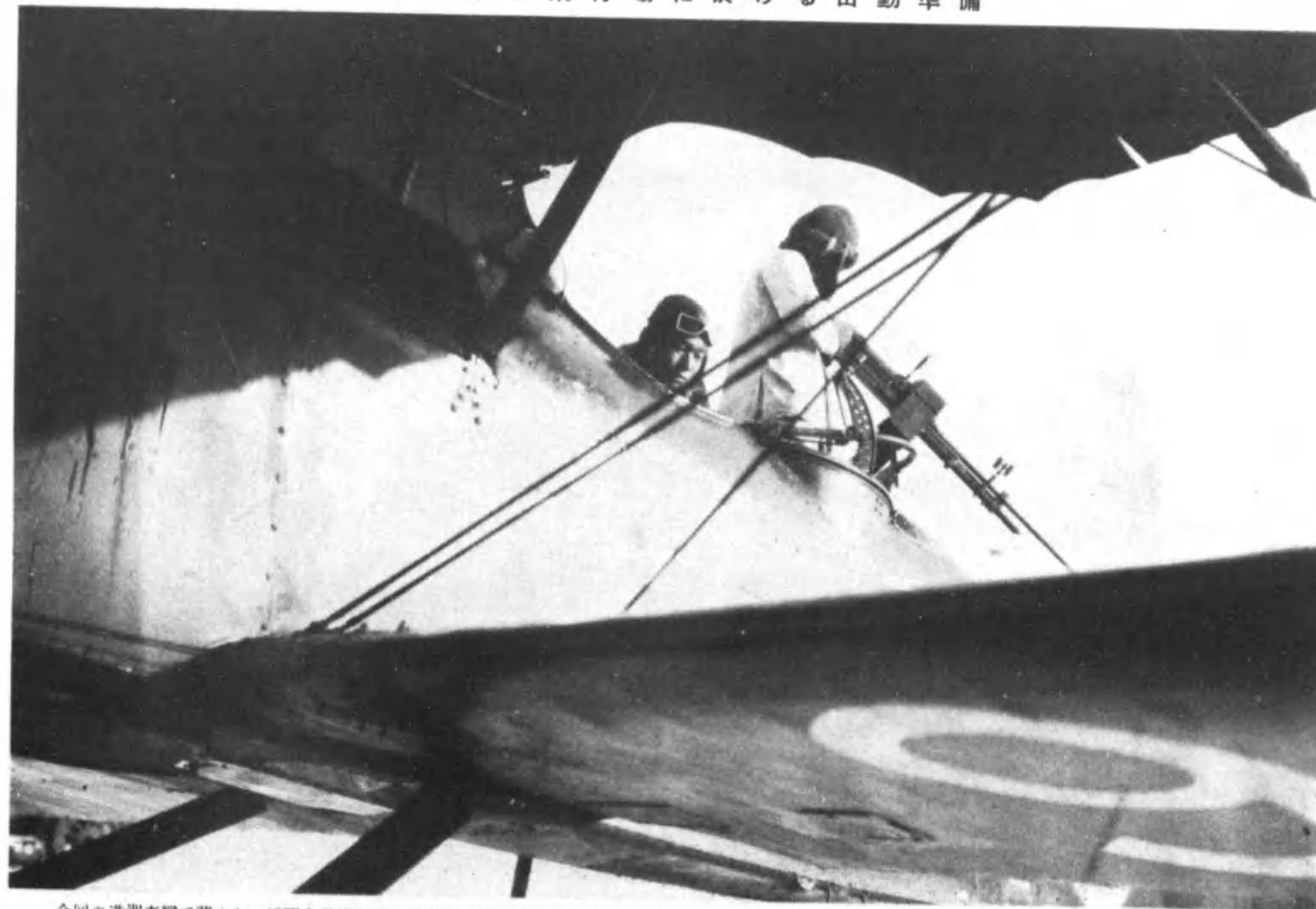
寫眞右、雪の兵營附近を守備する我兵士、寫眞左は便衣隊、別働隊の跳梁により破壊さる鐵道を警戒中の我鐵道聯隊の活躍。

我偵察に〇〇を積み込み中の光景



今度は支那の飛行機が一度も飛ばぬため我空軍でも變則的種々な經驗が得られたとのことである即ち戦闘機が偵察をやり偵察機が爆撃などをやつた等は全く變則であるといふ。寫眞は某飛行場に於て偵察機に〇〇を積み込み中の光景であるがこれ等地上勤務者の勞苦も大に察すべきものである。

奉天東北飛行場に於ける出動準備



今回の滿洲事變で華々しい活躍を遂げしはば敵軍に決定的の致命傷を與へ今や滿洲兵隊に取つて恐怖の的となつて居るものは我飛行隊である。寫眞は兵隊討伐に向はんとし先づ機上の機頭銃を點檢しつゝある光景。(〇〇飛行場にて)

金家塞より馬家堡に兵匪討伐に向ふ田所支隊



馬家塞附近の匪賊は徐々に其數を増し遂に馬家塞に我部隊を襲撃し來つた。報に接した田所大隊は之れが掃討撃滅を期し金家塞より同地へ向ひ激戦の後加藤中隊を助けて遂に之れを撃退した。寫眞は田所大隊が馬家塞へ向つて雪の進軍の壯景である。

公太堡附近我警官隊の苦戦



十二月十七日新民縣公太堡附近に約二千名より成る學員別備隊の大集團現はれ附近部落を襲撃し燒打ちを始め又東亞勸業公司の農場をも襲ひ公太堡に向け進出したので同地我が派出所警官隊は機關銃を以て之れに應戦したが敵は頑強に抵抗し激戦を續け我警官隊も相當苦戦状態に陥つた。應援隊來着により敵は撃退された。寫眞は苦戦中の我警官隊。

雪中に於ける陣中生活



酷寒の満洲に我將士とその勞苦を分つ無告の軍馬や軍用犬傳書鳩等を慰むも亦我將士の愛護の美德である。寫眞は雪の陣中に軍馬をいたはる我將士。

空軍の威力既に敵軍を壓す



九月十八日支交戦以來彼れの飛行機は遂に一機影だに現はさず従つて空中戦の現出もないが我空軍の威力は各地戦闘に於て發揮され一機の出勤能く敵營を窺らしむるものである。寫眞は〇〇根據地より將きに出動せんとする我空軍の精銳。

新民屯附近加藤中隊の民家宅馬賊討伐(其二)



馬家寨附近の戦闘に於ける敵の捕虜の言に依ると匪賊は何れも錦州政府の官兵で我軍の後方擾亂を目的として來襲したもので兵力は約一千名であつた。寫眞は此戦闘で我軍のため捕虜となつた兵匪三と遺棄して行つた牛。

新民屯附近加藤中隊の民家宅馬賊討伐(其一)



新民府部隊の加藤中隊は馬家寨附近に現はれたる優勢なる匪賊と交戦状態となり、賊は十二月十五日夕刻まで頑強に抵抗したが夜に至り遂に西方に向け退却した。此の戦闘における我軍の損害は戦死五名負傷八名であるが、敵軍は死體三十三個を遺棄して行つた。寫眞は残雪の中に勇壯なる我討伐隊。

奉天省長臧式毅氏の就任式



奉天全省民より新奉天省長に推戴された臧式毅氏は熱誠なる省民の推戴を諒とし快く就任を受諾した後、前地方維持委員会黨金鐘氏より省長の事務引継を受け即日省長に就任し日本と親善、民衆の幸福を希ふと挨拶を述べた。写真は奉天省長臧式毅氏と黨金鐘氏其他。

墨痕鮮かに書換へられた奉天省政府



十二月十五日奉天城内に於て奉天市長趙欣伯氏主催の下に奉天全省省民代表會議を開き地方維持委員會を開き地方維持委員會を解散して奉天省政府を組織す、省長に前遼寧省政府主席臧式毅氏を推戴した。寫眞は茲に新たに生れた奉天省新政府の表玄関。



船隻現下の滿洲においては各部隊の劇務と土賊の跋扈益々盛んなるため目下關東軍の全兵力は滿洲の治安を維持し帝國國民の生命財産の安固を確保するに充分なりとせざしくも尙後方機關の整備等若干の機動力を附加するを剩下の急務であるとし尙交代部隊の必要上内地部隊の派遣が漸く繁しくなつて來た。寫眞は東京驛出發の某部隊品川驛通過の輸送列車、と萬歲聲裡に送り出す市民。

滿蒙事變 鳥瞰

關東軍の最後の聲明

兵匪の兇暴忍びず 止むなく斷然討伐と

わが關東軍が西遼の土賊に對する徹底的討伐のやむなき所以を説つた對外的聲明の要旨は左の如く堂々たるものである。
軍は先月末天津の友軍援助のため出動したる新民よりの西進の企圖を自制止し、専ら支那側の覺醒を待ちて敵勢の衰ふるを期待したが、事豫期に反し、遼西一帯においては殘忍兇暴なる義勇軍、正規軍、公安隊並に純馬賊等合計十萬、ますます猖獗を極め、我を脅威する實情あり、軍はあくまで隱忍を重ねて今日に至つたが、状況かくの如くなるにおいてこの上尙忍ぶときは南滿洲の治安は遂に根底より覆へざるに至るべき恐れあるに鑑み、軍は遼西一帯の土賊掃滅に着手するのやむなきに至つた、もし我が土賊討伐行為を助くるものあるにおいてはその何者たるを問はず之れを除去するに豪も躊躇するものにあらず。
右の如く斷固たる最後の決意を示してゐる。

陸軍當局も聲明

關東軍司令官は遼西方面の土賊徹底的討伐をなす旨聲明したが、陸軍省でも次で陸軍當局談とし

て左の如く聲明した。
今次事變突發後に錦州に設定せる假政府は張學良の命令を受けて東北軍を同地附近に集中し、統制ある方針の下に盛んに暴虐蠻行を敢てし、滿洲の治安をかう亂し、民衆の生命財産を脅威し、鐵道の運行を妨害してゐるが、最近河川の氷結と共に橋梁以外の通路容易となれるに伴ひ、その行動ますます活潑となつて來た、しかして張學良は國際聯盟乃至米國方面において何故か特に錦州に對し關心あるを利用し、益々策動の根據地を堅くし抗日行為を繼續してゐるのである。彼が或は錦州軍の國內撤兵を又は假政府の遼州移轉等をうんぬんとするもこれ實に國際方面の同情を求め、日本軍の行動に疑惑を抱かしめんとする宣傳であり、陰謀である、然して兵賊討伐權に至りては國際聯盟においてもこれを確認した處であつて、兵賊討伐を徹底する結果はこれを妨害せんとする何物をも排除するに至るべきことは現實に即した適切なる處置であると吾人は確信する、故に萬一錦州附近の支那軍が兵賊を援助して挑戰的態度に出

づるにおいては我軍も又自衛上敢てこれを購置するに躊躇するものではない、然し断じて躊躇するものでないことをこゝに聲明する。

皇軍坪井聯隊を先頭に 歩武堂々進撃を開始遼 河を渡る

營口にて待機中の天野〇〇旅團司令部坪井歩兵〇〇聯隊、濱田歩兵〇〇聯隊、平田歩兵〇〇聯隊、若松騎兵〇〇聯隊、川村野砲〇〇聯隊、神戸〇〇大隊、〇〇自動車隊約〇〇〇名は二十七日午前四時坪井聯隊を先頭に田庄家附近兵庫賦役のため威風堂々進軍を開始した。

滿洲事變理事會メモ

【第一回】九月廿一日支那代表滿洲事變をジュネーブで開會中の理事會に提議▲九月廿二日右に關する理事會開かる▲九月卅日理事會公開、議で日本の可及的迅速撤兵の聲明を諒知し日支非常關係への復歸を希望する旨の全文九ヶ條より成る決議案を全日一致で採擇の上閉會。

【第二回】十月十三日ジュネーブで理事會再開ブリアン氏議長となる十月廿四日、十一月十六日の次回理事會開會期日までに日本軍全部の鐵道有屬地撤退を要求する決議案は日本の反對のため十三對一票で成立に至らず閉會。

【第三回】十一月十六日パリで三たび理事會開かる同廿一日理事會公開會議開かれ對支調査委員會議遣に關する日本代表の提案受諾さる。

同廿三日理事會秘密會議で(一)九月卅日決議の再確認(二)滿洲における日支双方の戰行爲停止(三)調査委員會案の三要素を中心として決議草案の骨子成る▲同廿六日理事會秘密會議で理事決議案起草委員會、ブリアン議長、セシル卿、マダリアカ氏の三名より成る)任命▲十二月一日日支を除く十二ヶ國會議は起草委員會作成の決議案文及び議長宣言を可決日支兩代表部に通告後わが政府の修正案について折衝大體わが修正案容認さる▲同九日理事會公開會議開かれブリアン議長決議案及び宣言案朗讀▲同日公開會議閉會。

秩父宮殿下親しく

東京驛頭に出征勇士を 見送り給ふ

滿洲獨立守備隊の補充兵として第一師團管下諸聯隊から選抜された〇〇名は十二月十七日徒歩で東京驛に集つた、各聯隊檢閲りの兵士といづれも雄々しい青年ばかり、東京驛頭の廣場は始めて地元の兵士の出發なので立錫の地なき人垣の熱誠なる見送り、ホームは在郷軍人で埋まつてしまつた麻布第三聯隊御在籍の秩父宮殿下には、中隊長の御資格で將校たちと共に一般乗車口からホームに成らせられ、午前八時二十五分の列車出發時刻には派遣兵の一人一人に對し御敬禮を賜はつたので、出征の兵士たちはと感激して殿下の御恩に必ず報する事を思ひつゝ元氣よく征途に就いた。

異國人にして此義憤

此義金

今日の滿洲事變における我國の行動が全く正義の行動であることを理解し、聯盟の態度に少なからず義憤を感じた異國人にして、陸軍當局へ献金し來るものが續々ある事は喜ばしい次第である、その内でも獨逸人カール・レイモンの五十圓と義憤進手紙アルメニヤ人(化粧品商)一日の賣上純益金百二十圓の持參等はいづれも陸軍省係員を感激させたものである。

献納される重爆撃機

「宮城野」

宮城縣在郷軍人團から

滿蒙の曠野に奮戦しつゝある多門師團のお膝下宮城縣在郷軍人支部では十二月六日臨時大會を開き軍用飛行機「宮城野」献納會の發會式を舉行し、同年二月二十日迄に二十萬圓を募集し、重爆撃機「宮城野」を献納することとなり飛行機製作購入其他は陸軍當局に委任することとなつたが、陸軍當局において、此舉に非常に感激し、完成次第遼く滿洲に送り國防の第一線に就かせる事となつた。

彈丸恐るゝに足らず

國産鐵兜の偉力

滿洲事變突如以來小部隊の兵を以て十數倍の大敵にあたるのが滿洲派遣軍の間に敵と比較して尊い戦死者が非常に少く、外國武官さへわが軍の偉

力に驚嘆してゐるが、この戦死者の少い裏面には優秀な純國産九〇式鐵兜があつた力があるものと云はれてゐる。

この鐵兜は多年わが陸軍技術本部の苦心研究の結果昨年始めて生れ出たもの、非常に強靱な特殊鋼で作られたわが國獨特の鐵兜で、近距離における小銃の直射弾には効力が少ないが、中距離以上の直射弾や野砲の榴霰弾子の破片、手榴弾の破片等をくらくらつても見事にこれをはねつける偉力を持つてゐる。

これまでは假制式の鐵兜を南洋事件にあたり試験的に使用して見たが假制式鐵兜は重量も多く金質粗悪であつたため、彈丸に對し余り効力を發揮することが出来なかつた。

これまで戦死者は臍腹部に彈丸を蒙つた結果即死するものが多かつたが今度の九〇式鐵兜によりわが將士の尊い生命がとくに防護されてゐるほか第一線の將士に與へる精神上の力は非常なものであると陸軍では語つてゐる。

派遣軍全員に鐵兜を贈れ

一二三團體が運動開始

鐵兜の偉力については前述の如くであるが、此九〇式鐵兜は緊縮の痛手を受けて陸軍に準備されてゐる數は極めて少なく滿洲派遣軍の全部にさへ行渡つてゐない事を知つた國民の間から最近一全派遣勇士に鐵兜を贈れ!といふ猛運動が開始された。

先づ大塚下町々會では毎日から零細な金を募り三百四十餘圓を得て饑兇廿五圓を購ひ「これで派遣軍將士の身を護つて下さい」と陸軍省へ届出た此種の贈物は全く事機に適したものと云はれてゐる。

同郷の親愛を携へ

選抜の看護婦人渡滿

滿洲の野に傷けるわが將士の温かい看護に従事すべく渡滿した看護婦二十一名はいづれも出征師管下の赤十字社支部から選抜されたものである。



これは赤十字社の心遣から異郷の病床にある傷病兵の看護にはその出身地の看護婦の方がその土地柄や方言も知つてゐるだけ、將士たちにも氣安いだらうとわざわざ宮城縣や新潟、山形、福島、秋田、岩手、青森縣下の同支部から選ばれたものである。

滿洲從軍を熱望する 女性の志願を血に綴る

毎日の新聞其他で滿洲派遣軍の苦闘を知る若い女性の中から陸相や參謀長あてに從軍看護婦志願の手紙が殺到し中には生々しい血判まで押し堅い決心のほどを示す女性もある、その志願書に「度々看護婦志願書を提出してゐるものです、水ごりとつて毎日採用して下さいませう祈つて居ります」とか「兄も秋田縣隊から出征いたしました、身を賭して負傷兵の看護のため働きたいと思つて居ます」とか悲壯な決意を數回にわたつて申述べてくるので陸相も今更ながら雄々しい大和撫子の意氣に感激してゐる。

日本！増兵せよと支那

女學生も叫ぶ

奉天の日本増兵示威で

支那が何といはうと、聯盟が何と決議しようとなし、滿洲の事態は益々危険だ、増兵の必要こそあれ撤兵は出来ないこれが十一月十五日奉天在留邦人一萬の日本増兵示威運動となりて現はれたのである、しかもその行進中には支那女學生の一隊を含んでゐた、即ち擄取と暴壓をこれ事とした滿洲の軍閥政治に對しては純真な乙女心にも増進の念が溢れてゐるのである、それは必然的に日本軍への親しみと感謝となつて、日章旗を手にして奉天商埠地を練り歩いた。

一針づゝに眞心こめて 滿洲に贈る千本針彈丸 よけ腹巻

嚴寒に苦闘する在滿の我が戰士のために各地各團體でも昔からその利益を傳へられてゐる千人針彈丸除け腹巻を慰問として贈ることとなり、各團



員多數街頭に進出し通行の婦人連に一針づゝの運びを無望し、頼まれる婦人達もお國のために奮闘する派遣軍に心からなる奉仕として喜んで針を運んで行く、針の運びにも一日の糸にも眞心こめた此の情景こそ涙くましいものである、かくして出来た腹巻は在滿洲兵士達の腹に……

一事變の慰問金品日露 戦役當時の額に近し

滿洲事變以來男女老幼の別なく全國民の關心は一に本事業に注がれ連日陸軍省へと殺到する滿洲

派遣兵への慰問者は引きもきらず、慰問金のみで毎日三萬圓を下らず、十二月三日の如き慰問金三萬二千圓、慰問袋一萬五千個が持ち込まれ其總額慰問金十八日までに八十一萬五千圓、戦死者遺族慰問金三萬八千圓、出征兵士家族慰問金十二萬二千圓在滿馬匹慰問金四千三百圓學術技藝獎勵金十五萬八千圓慰問袋九十四萬五千個に達した。明治三十七八年の日露戦争當時の慰問金品陸軍省の調査に依れば

慰問金總額百三十三萬圓、慰問袋總數一萬九千六百九十六個に達してゐる、日露戦争は今師團總動員で帝國の興隆を賭けた日本歴史空前の大事變であるが、今回の事變はこれに比して極めて小規模の出兵にも拘らず日露戦争當時の將士に半ばに達せんとする國民の恤兵熱に對しても陸軍當局も非常に感激してゐる。

排日で支那商續々と破産

不自然な對日經濟絶交の天罰を蒙つては漢口金融業者は最ひどい打撃を受け商人の手許にある日貨動かねたため貸の資金は回収されず爲めに金融硬塞し金利は日歩六錢の高値に對し實際は十六錢乃至二十錢に昂騰して居り同地の錢莊百五軒中已に十四軒の破産者を出し四十七軒は破産に傾いて休業中である他の四十四軒は幸ふじて營業を續けてゐるが今後決算期毎に倒産者續出することは明白である。

學良式軍資調達法

紙切れが印刷代だけで金になる

東三省の王、張一家には金を造る魔法があつたのだからツケはない、アメリカン紙幣印刷會社に注文してどんく印刷させ、兌換の準備なしに東三省官銀行から濫發した紙幣で滿洲の特産物を買ひ占め、それを海港に積出して外債へ賣りさへすれば始めの紙幣と印刷代だけの紙幣はこの特産物の媒介で直に金となりドルとなりポンドとなる、それではどんな立派な武器でも買ふことも造ることも出来るわけである。

「八裂きにしてくれ」と土賊の頭目降伏

十二月、上旬昌圖附近の部落には老三省並に天樂を頭目とする約四千名の大土賊團體をなして滿鐵沿線昌圖付屬地を襲撃せんとたくらみ既に昌圖城内に侵入し來り昌圖付屬地の人心は極度におびえて來たためわが獨立守備隊第〇大隊長田所中佐はこれが討伐を行ふべく兵〇〇〇名を率ゐる四平街を出動昌圖に入城した、皇軍の威力に恐れをなした敵は算を亂して逃げしたが長日月にわたり土賊敗殘兵に苦しめられた支那住民は我軍の入城を心から歓迎し歡喜と安堵の色を見せた、此日大隊長の許へ年頃三十七八の六尺豊かな偉丈夫が訪れ來た、彼は既に部下とともに逃亡した管の老三省である、彼は田所大隊長の前にひれ伏して積年に

わたる罪狀を詫びるとともに惡魔無道の張學良に討たれて死なんよりもむしろ皇軍の殺きの下に八ツ裂きにされても尙辭せず如何やうにも處斷ありたしと溢るゝ眞情を吐露して降服を誓つた、大隊長はその犯し來つた罪は萬死に償するも日本軍の治下に服するものは敢て之れを拒まずとなし、かつ眞意を察して彼れの死を猶豫し會見を終つたが之れを聞き知つたものはいづれも單身敵陣に乘込んで眞意を明かにした老三省の意氣を壯とするともに一兵をも損せずして數千の土賊を逃走せしめ頭目を降服させ治安維持の効果を收めた田所大隊長の殊勳を賞讃してゐる。

なほ田所大隊長は昌圖城内にて徹夜家宅搜索を行つたところ意外にも張學良軍第十六、第二十の二個旅團が敗走に際して小銃弾十四萬發、迫撃砲、山砲等の砲彈多數を遺棄してゐたのを發見した、これが土賊團の手に落つれば事重大なりとなし直ちに之れを捕獲した上四平街に歸還した。

鄭通譯の山田一等兵救助は日鮮融和の楔として大衝動を與へた

大興の激戦に重大な斥候の任務を帯びて敵陣深く入り不意捕はれの身となつた若松騎兵聯隊の山田一等兵が一週間チ、ハルの陸軍監獄に投ぜられ危く銃殺せんとしたるを朝鮮人通譯鄭雪清のためにも奇しくも救ひ出され本隊に歸還し得た、此こそ日鮮融和の戰場美談として全國民に大きなショックを與へたのである。

昭和七年一月十日印刷
昭和七年一月十九日發行

「滿蒙事變寫眞帖」

不許複製

編者 忠孝之日本社編輯部
發行所 東京市神田區表神保町一〇
印刷者 玉井清五郎

發行所

東京市神田區表神保町十番地
忠孝之日本社

(電話) 神田二三三三番
(振替) 東京八三四八番

終

